

ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査 報告書

1) 調査スケジュール

平成29年 6月 アンケート調査票作成

7月～8月 アンケート調査開始（調査票の配付・回収）

9月末日 回答締め切り

2) 調査の配付・回収

(ア) 配布：子ども総合相談センターから各家族会の代表者に調査票と返信用封筒を送付し、会員に配付いただく。

(イ) 回収：各会員が返信用封筒にて、子ども総合相談センターに返送。

3) 対象・設問内容：枚方市内で活動するひきこもり・不登校等の子どもを持つ家族会の会員を対象に（枚方市外の会員も含む）

I. 子ども（当事者）・家族について

II. 家族会について

29個の設問で構成しています。

4) 記入方法

・別紙、アンケート調査票に直接記入する。答えは、当てはまる番号を○印で囲むか、数字を記入する。

・「その他」を答えた場合は、（ ）内に具体的な内容を記入する。

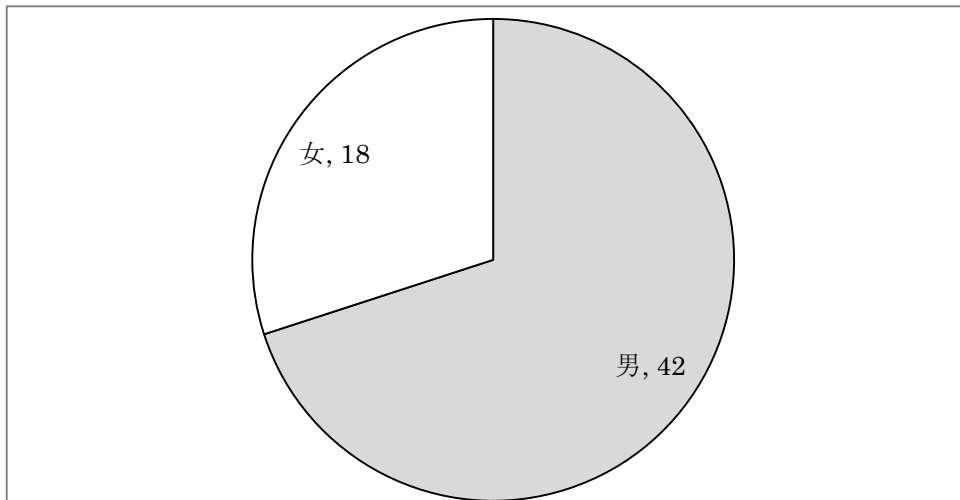
・回答に迷う場合は、回答者の気持ち、考えに近いものを選ぶ。

5) 配付・回収数

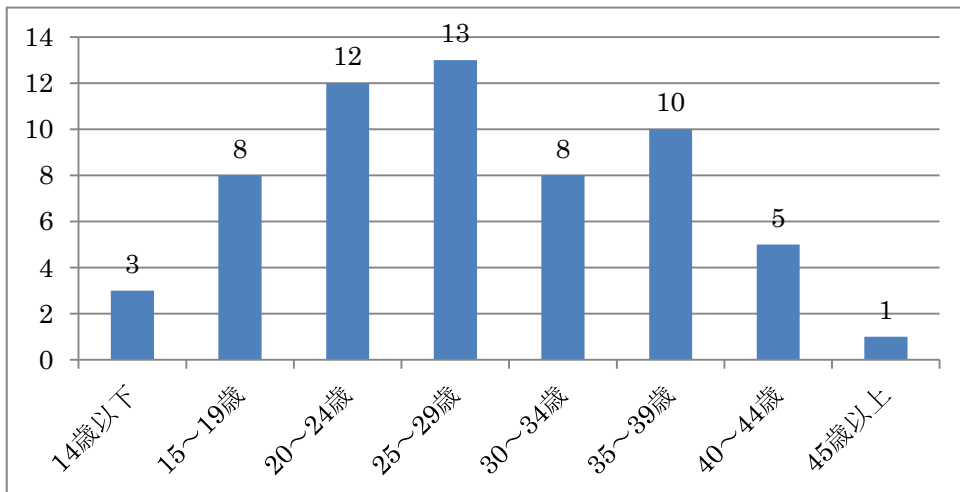
配布先	配布数	回収数	回収率
イシス大阪家族会	—		
つばさの会大阪	—		
登校拒否を克服する会北河内交流会	—		
不登校の親の会カモミール	—		
計	175部	60部	34.3%

I. 子ども（当事者）・家族について

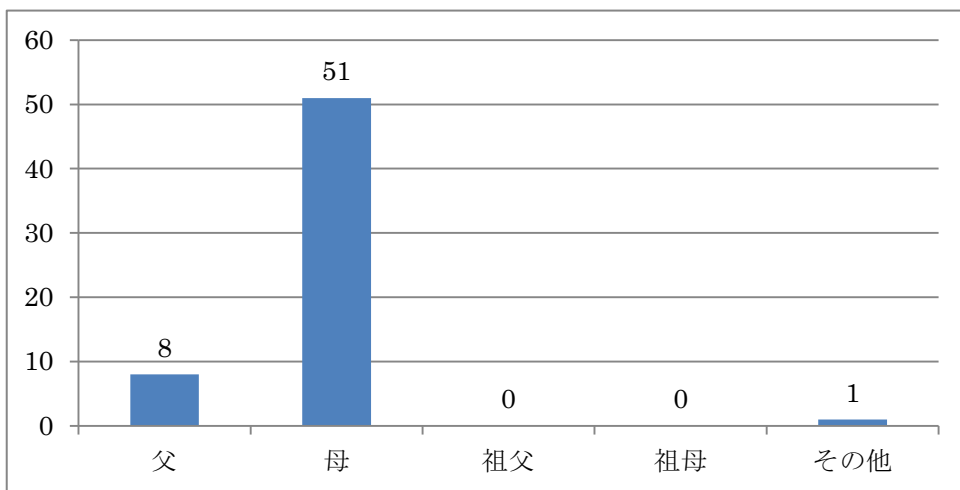
Q1 お子さんの性別をお答えください。



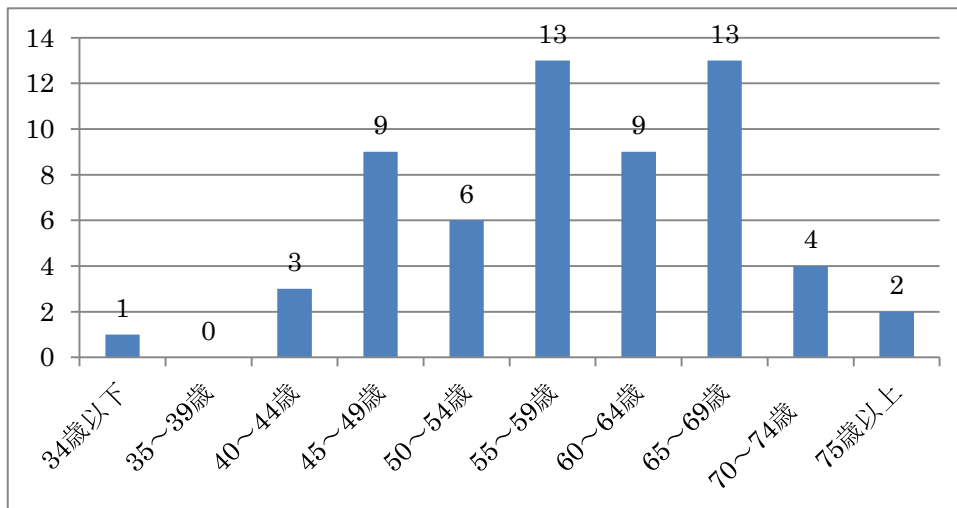
Q2 お子さんの年齢をお答えください。



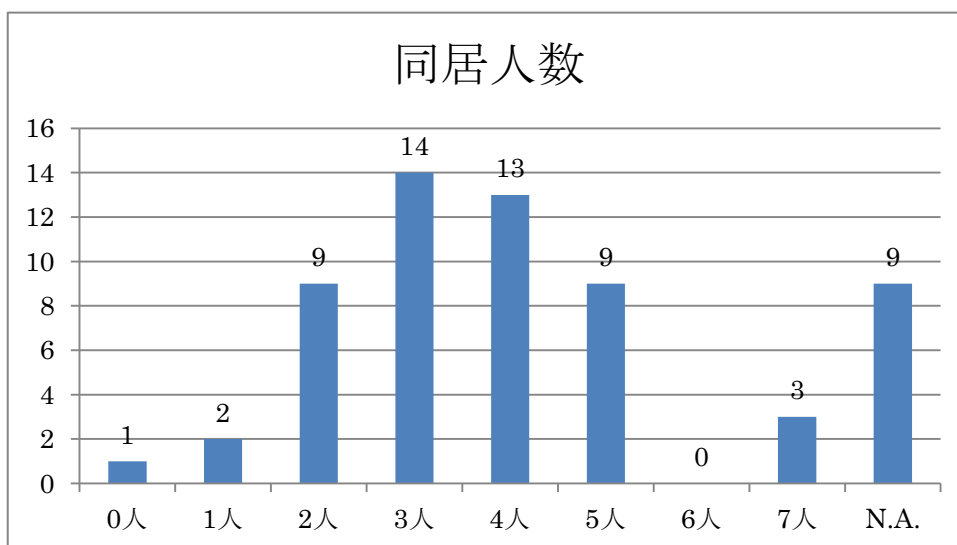
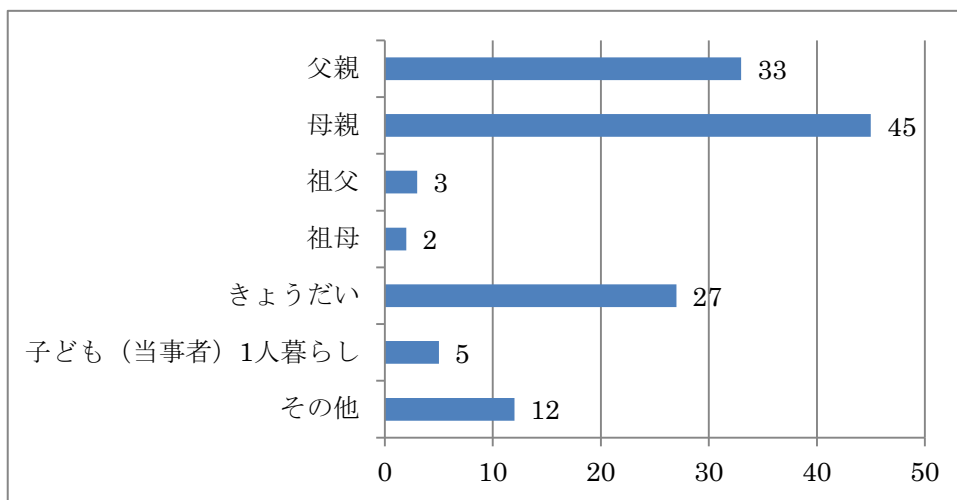
Q3 ご記入者とお子さんの関係をお答えください。



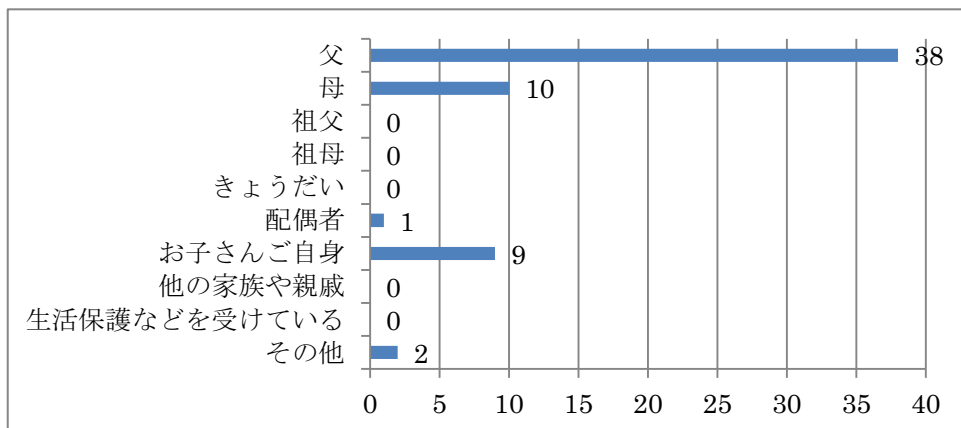
Q4 ご記入者の年齢をお教えてください。



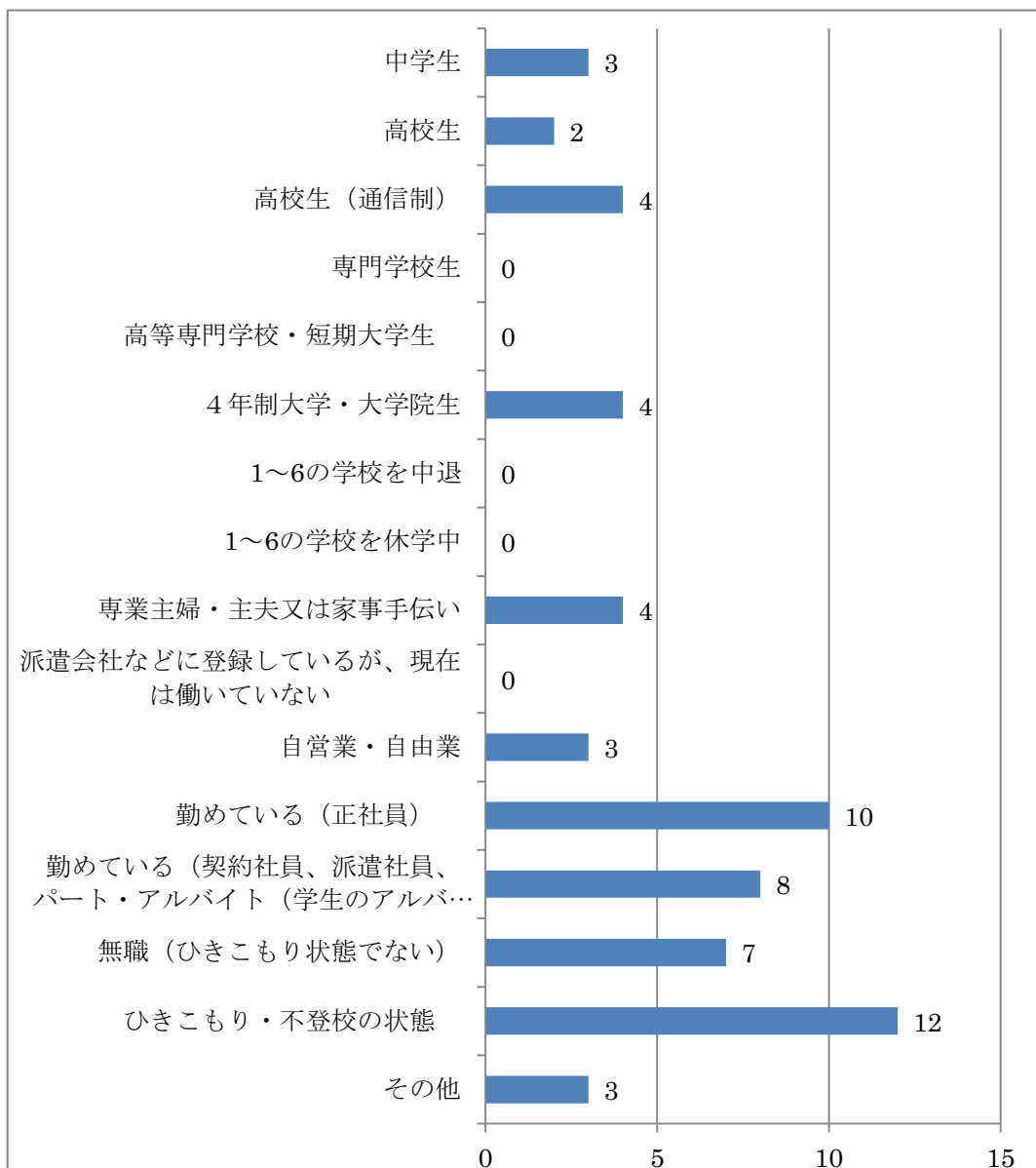
Q5 お子さんと同居している家族を教えてください。また、お子さんも含めた同居人数を記入してください。



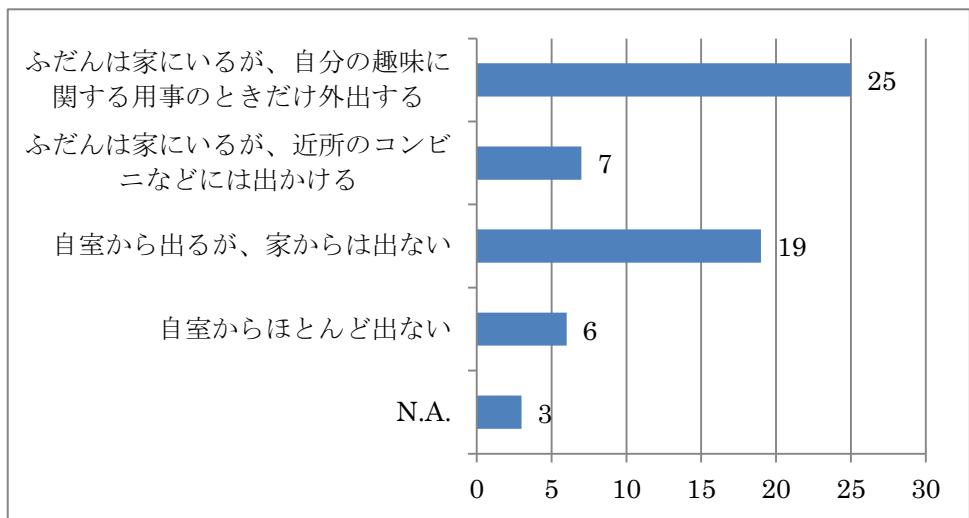
Q6 お子さんの家の生計を支えているのは主にお子さんから見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、最も多く家計を負担している方をお教えてください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお教えてください。(〇はひとつだけ)



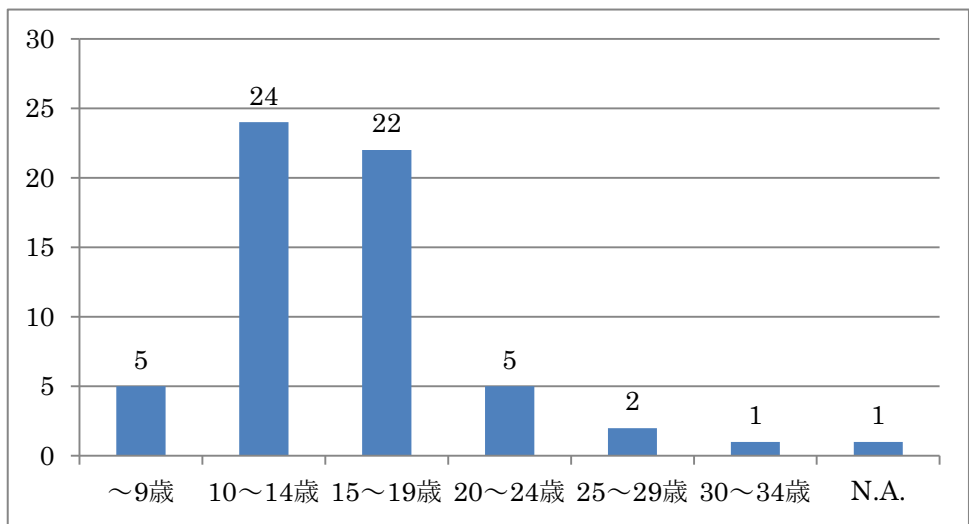
Q7 お子さんの現在の状況をご記入ください。(〇はひとつだけ)



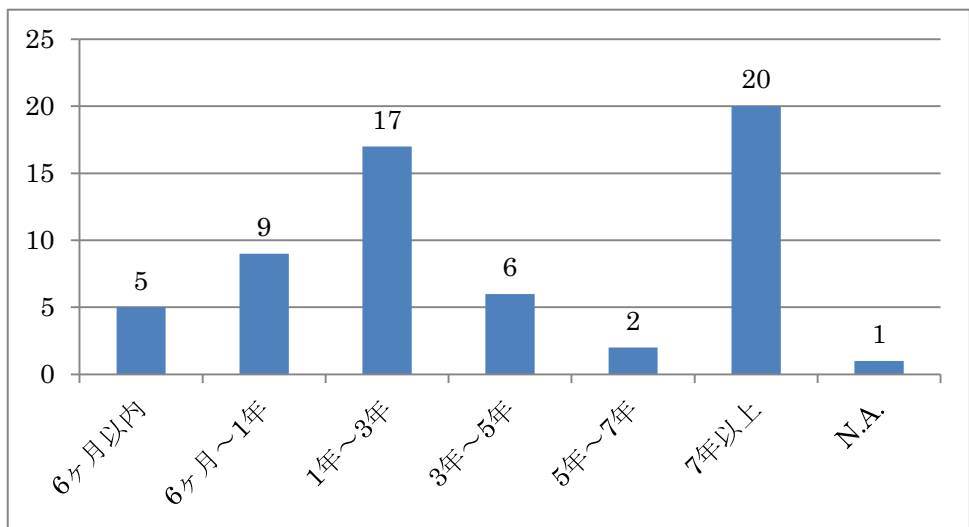
Q8 お子さんは、ひきこもりや不登校の状態で、以下のような状態になったことはありますか。
 (〇はひとつだけ。当初の状態をお答えください。)



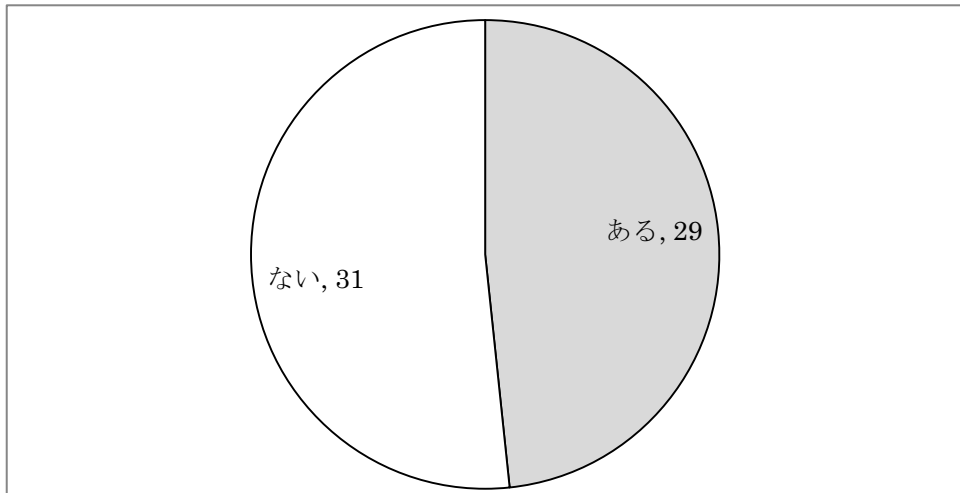
Q9 その状態になったのは、お子さんが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



Q10 その状態はどれくらい続きましたか。(〇はひとつだけ)

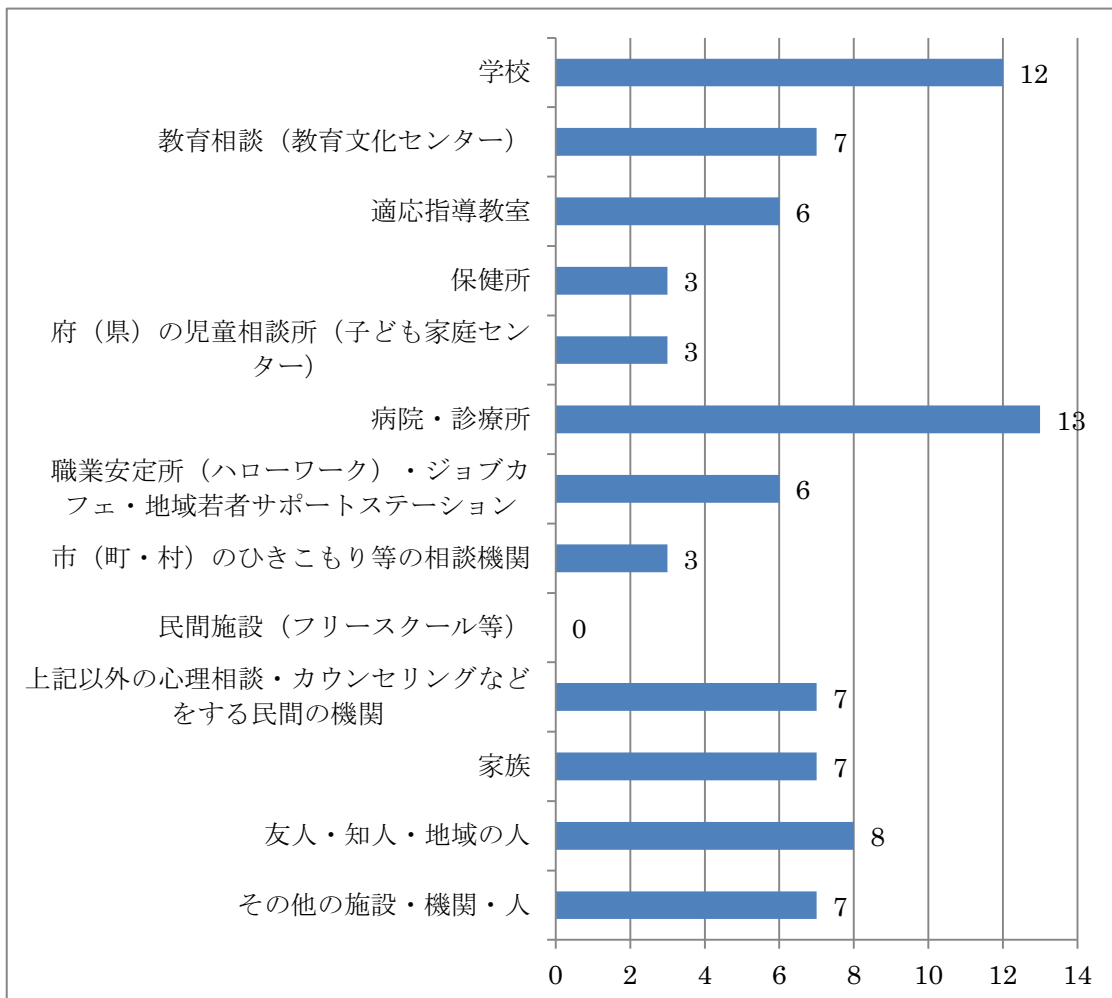


Q11 その状態について、お子さんが関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



Q12 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことの機関、人に○をつけてください

(○はいくつでも)



その他の施設・機関・人 (具体的に:…)

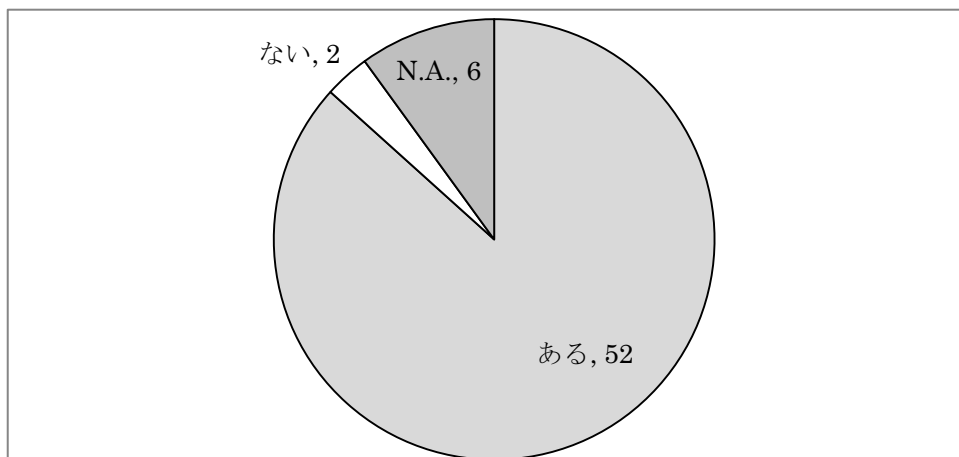
○親の会・家族会 (6)

○パソコンでチャットなど

○カウンセラー

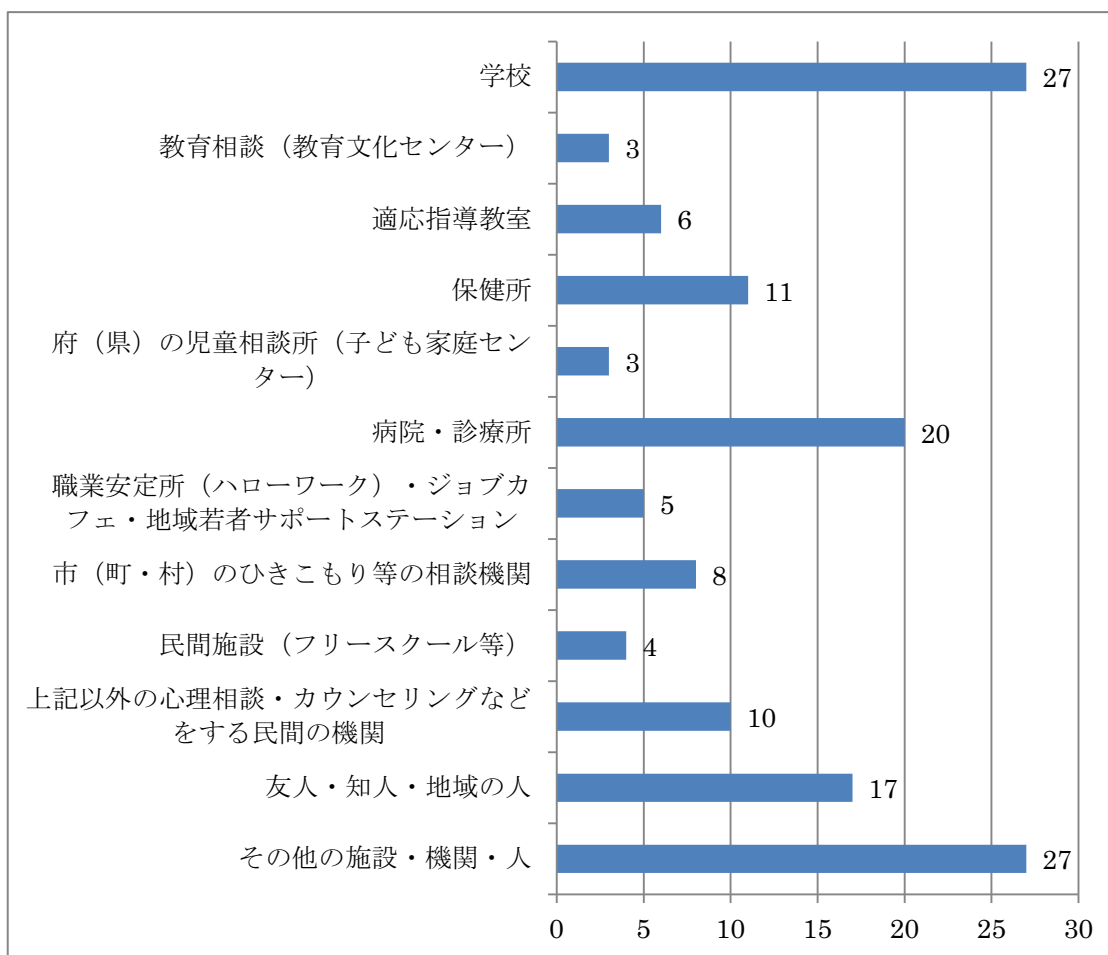
○小学校の時のスポーツチームの監督

Q13 その状態について、ご家族が関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)



Q14 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことがある機関、人に〇をつけてください。

(〇はいくつでも)



その他の施設・機関・人 (具体的に : …)

〇市内親の会・家族会 (21)

〇他市の (大阪、京都など) 親の会 (講演会めぐり) →ご近所には知られなくなかった。

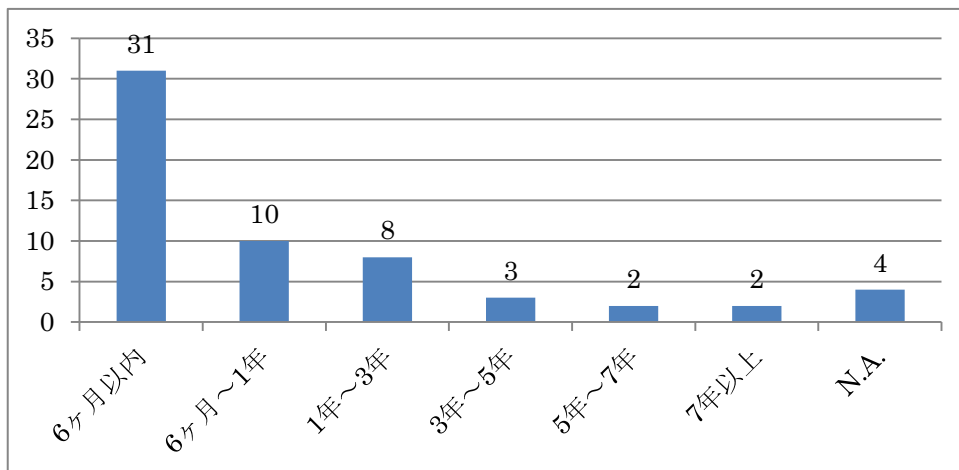
〇教育相談 (教育文化センター) (2)

〇NPOの教育相談機関 (大阪市内) (6)

〇市の青少年センター

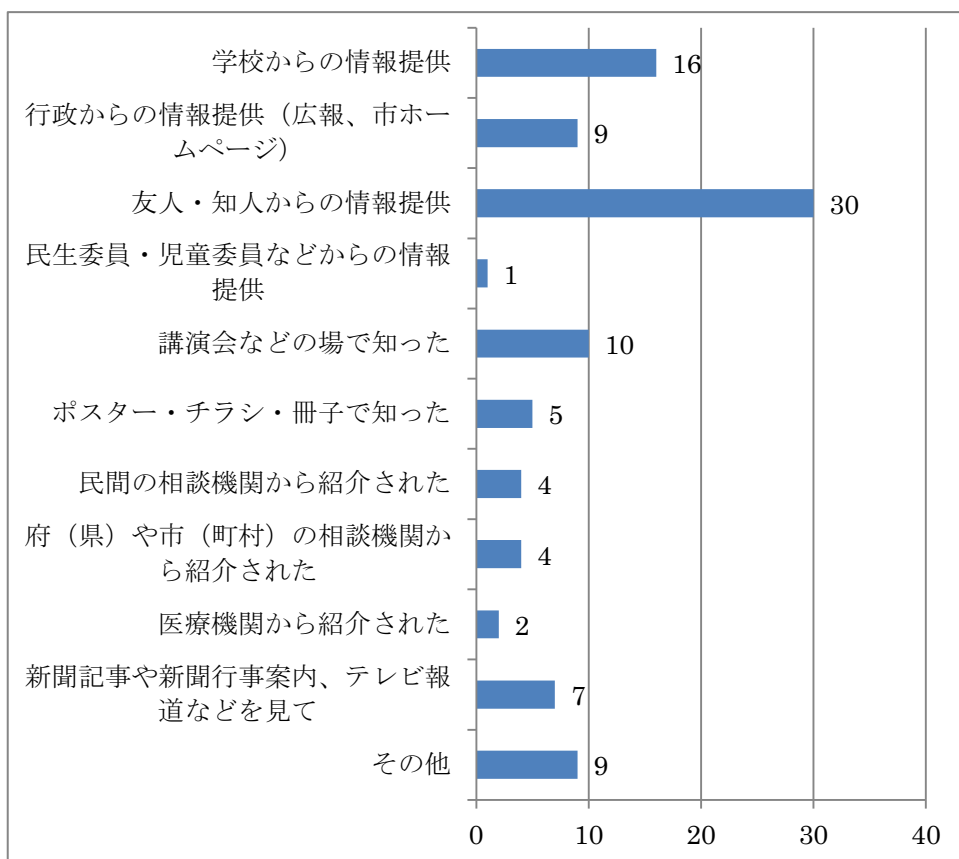
Q15 お子さんがひきこもりや不登校になり、相談機関につながるまでどのくらいの期間がありましたか。

(○はひとつだけ)



Q16 相談機関につながったきっかけについて教えてください。

(○はいくつでも)



その他（具体的に：…）

○きょうだいが不登校になった時に、親の会につながっていたので、その延長で。

○自ら親の会や相談機関を探しにいった ○インターネット（2）

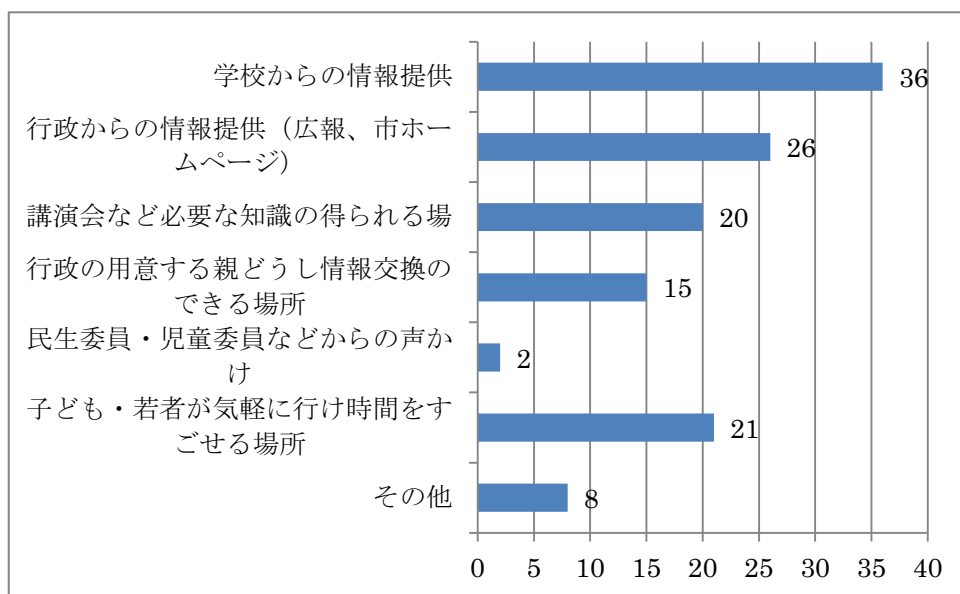
○家族から若者サポートステーションを紹介された

○親の会から紹介された機関 ○医療機関から紹介された機関

○広報の講演会の案内を見て（恐る恐る行きました）

Q17 相談機関につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか。

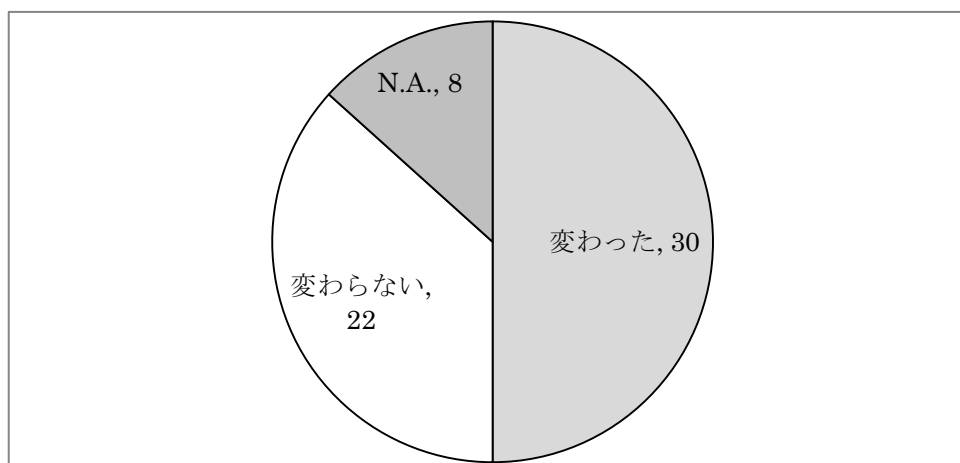
(〇はいくつでも)



その他（具体的に：…）

- 本人がどうしても動かなかった
- 不登校の子どもの知識、確かな理解をしていただける方による、本人への家庭訪問
- ボランティアのメンタルフレンドによる訪問
- 家庭訪問による定期的なコミュニケーション。本人と関わろうとしてほしかった。
- 子どもの弱点をわかり、若者が気軽に参加でき、成長させてくれる場所や、アルバイトの場やスポーツができる場所。
- 本音で気楽に親同士が話し合える場所
- 親が安心して相談したり、身心を休める居場所が身近なところにあればよい。
- 行けなくなって数日、七転八倒の苦しみ。約10日後に、はじめてカウンセリングへ。

Q18 相談機関につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。(〇はひとつだけ)



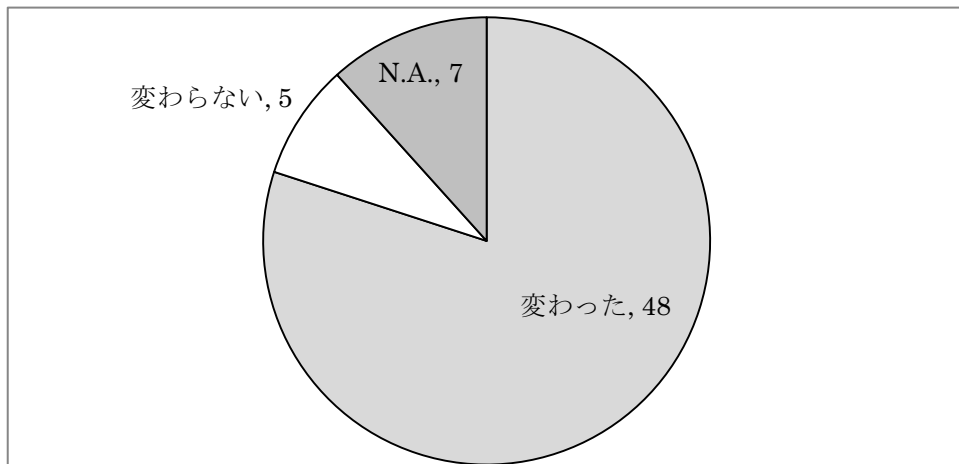
具体的に…

- 学校のカウンセラーの方に出会い、週1回は外（学校）に行くようになった。自分の味方になってくれる人と出会い、未来に対する希望が持てた。

- もともとスクールカウンセラーとして来ていた先生に、学校に行けなくなった状況を知っていただいたので、子どもが信頼して自分の思いを話せていた様で、時間を掛け少しずつ動き出した。
- 同じ立場の不登校の友人ができ、大学生の時には他市の適応指導教室の指導員をしたことで、そこのつながりが今も続いている。
- 若者サポートステーションの紹介で府の就職支援センターに行くことができた。
- 少しずつではあるが、自信を持ってきていると思う面もあるが、対人関係の悩みであり、越えられない壁もあるように思う。
- もともと外に出るのは嫌ではなかったのですが、自分の行く所ができて少し元気になったような感じがした。
- 前を向く様になった。
- 少しでも態度や気分が変わったように思う。
- 自分をわかり行動するようになった。
- 家族以外に話を聞いてもらえる場ができて、少しずつ落ちついてきた
- コンビニ等には必要な時は行けるようになった。
- 少しずつ外に出られるようになり、理解してくれる人ができる事がとても必要で、大事だと感じたと思う
- 家族との会話が増えた。(受け答えだけだったが、今は、自発的に本人から話しかけてくる)。外出時の挨拶も本人からする。父とコンピューターの故障を修理したり、父との関係も良くなってきている。顔がやわらかくなり笑顔が増えた。
- 不安が強く真夏でも窓を全部閉めてベットの横にバット置いて親をせめていた。親が教育相談に行く事を良いとは思っていなかったが、お母さんは自分のために行っているんだと伝えているうちにだんだん落ちついてきたと思う。今は交流会のつどいに行っている事を喜んでいる。
- 子どもが直接つながることはほとんどなかったが、親自身がつながったことで親の心が落ち着き子どもへ適切な対応ができるようになり、結果として子どもがよい方向に変わっていった。
- 最初は相談機関に行くことを拒み続け、親としては情報収集と思い、各所回った。少し元気になり前向きになった頃、子どもと各所回り、自分で合う合わないを選択するようになった。
- 母親が安定することで、子どもが落ちついてきた。
- 子どもは、いきなり変わらない。親自身が、カウンセラーと出会って苦しんでもいいんだ、ひとりじゃないんだと思えた。
- 小学校の相談室(別室)の先生が、お手紙をくれ、相談室登校が出来るようになった。家から出るのも怖がっていたので有難かった。
- 適応指導教室に行くようになった。
- 中学から市の適応指導教室に行く事になり、本人の気持ちも落ち着き、先生たちと過ごすうちに、明るい心を取り戻してきたように思います。今、通信制の高校に行けているのは、この経験があったから。
- 高卒認定資格をとることができた。定期的に外出できるようになり、次の訪問機関につなぐことができた。
- その姿や表情が子どもに良い意味で伝わり、「休んでも大丈夫」と思って子どもも安心した様子だった。
- 私立中高一貫校に行った。
- 相談機関につながった結果が、子どもの変化に関係したかどうかはわからない。(親がつながって、子どもは直接的にはつながっていない。)
- 気持ちはやわらかく、整理できるようになったが、状況は変わらなかった。
- 本人も相談機関に行ったが、その時は、まだわからなかった。
- 話をきいてもらって楽にはなるが、子どもは変化なし。

- 子どもは相談機関には行かず、父母が相談に行った。従って子どもに変化はない。
- 相談機関に子どもは行ってない。親だけが通った。
- 子どもは相談できていない
- 親の会等で学んだことを、本人に十分生かせなかったように思う。
- 「働きたい」とサポステに行ったら、「仕事を紹介するところではない」と言われ、その後行かなかった。病院の方は通院し、症状は落ちついていった。
- 小学高学年から中学卒業まで不登校のあと、高校（通信制）へは、進学したが卒業後の進路が決まらず、現在ひきこもり状態。
- 子どもに直接関わってもらったわけではないが、時間とともに落ち着いた（高校を受験しなおした。無事卒業したが、その後、前に進めていない）
- 子どもは、不登校で自信をなくして、誰にも知られたくない状態だったので、母が親の会などに行く事に拒否すると思ったので、知らせずに参加していた。数年続けているうちに、次第に認めてくれるようになった。我家は、絶対に子どもから、相談機関につながる事はなかった。（ない状態だった）
- 学校には行けてなかったが、市の青少年センターへ行くことで本人は少し気が楽になった様子だった。当時は適応指導教室や学校内の保健室登校やスクールカウンセラーもなく、学校へ戻すことしか方法がないようで、登校刺激はマイナスになった。
- 10年経った今、医療機関に行けるようになった。

Q19 相談機関につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。（○はひとつだけ）



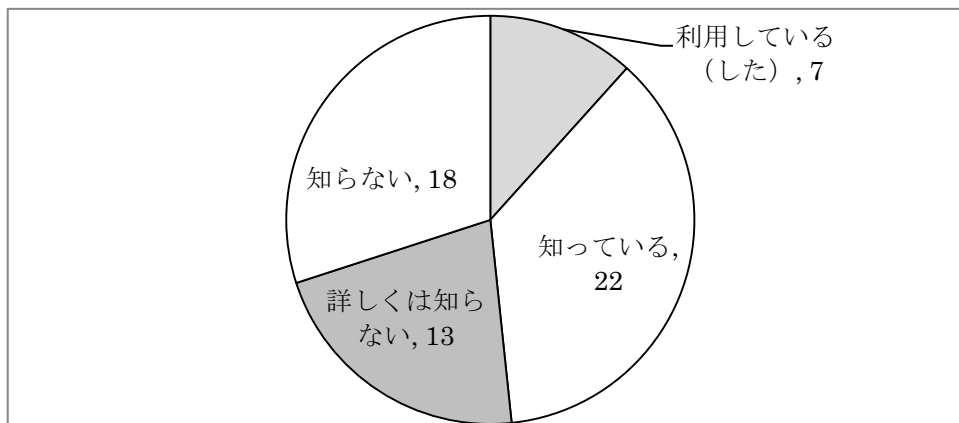
具体的に…

- 仲間がたくさんいて、心が軽くなったことで子どもの辛さを受け取れるようになった。
- 学校行きなさい！という事から行かなくて良し!!に変化。毎日元気に暮らしてさえてくれればと、思うようになった。感謝している。
- 親の立場からの心配や悩み、子どもとのコミュニケーションのやり方を少しずつ理解できるようになった。
- 子どもの状態や気持ちを理解でき、親自身の今までの対応や気持ちのあり方を知ることができた。
- 人に話すことで、気持ちが落ち着いたり、整理されていったように思う。それが子どもの落ち着きにもつながった。
- 親と子は別の人格だということをも身を持って受け入れられたら、とても楽になった。仲間ができて世界が広がった

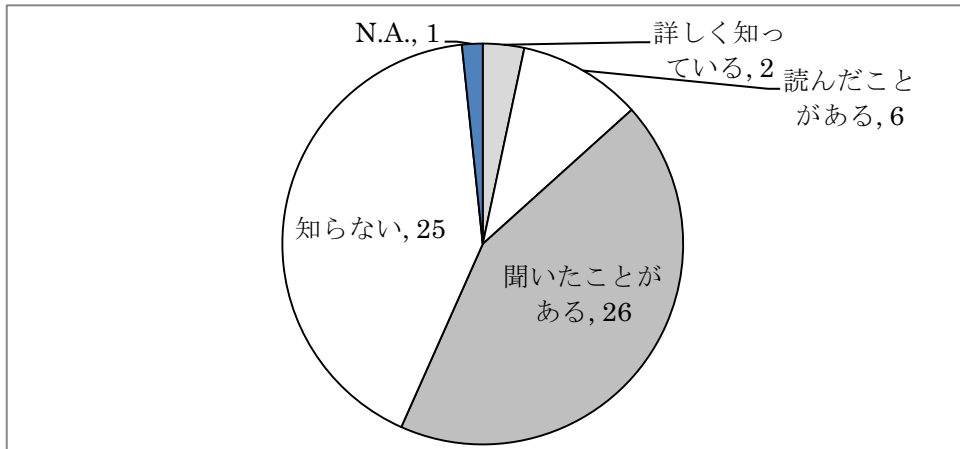
- 安心し、まかせることができた。見守るだけでよくなった。
- 気持ちが楽になった。 同じ経験をした方の話には説得力があり心に残るものがあった
- 社会状況が良くわかった。又、色々な事例を学べた。社会のひきこもり問題がよくわかった。
- 親と子どもの接し方のまずさが、本人を形づくったと気付かされた。
- 同じ境遇の事例を聞き気持ちが楽になった。本人をリラックスさせるよう生活態度を変えた。
- 自分たちだけではない、自分が悪いわけではないと思えるようになり、気持ちに少しゆとりがもてる様になり、あせり感もなくなった。子どもに対して、生まれた時に思った元気であってくれば良いと素直にそれだけを望めるようになった。
- 十分苦しさをはき出せるようになった。
- 夫婦の方向性の一致。本人を理解する。抱えていた不安や心配が少し軽減された。
- 子どもの状況をあせらず受け入れ、待つことができるようになった。
- 気分が軽くなった、自分たちではわからないものが見えたり気付いたりできた。
- 親の意識が根本から変わる必要があることがわかった。
- 親が落ちついてきた。話しを聞いてもらって、心の整理が少しづつでき、子どもにもゆったりと接する事ができるようになった。まず親が相談したり、話せる場所が大切だと思った。
- 見通しがたち、より子どもと落ちついて過ごせる様になった。
- 子どもの思いに寄り添えたり、親としての役割がわかったり、自分も話すことで落ち着いた。
- 悩みを聞いてもらえるだけでも少しは不安が解消し、子どもにも落ちついた対応がとれた。
- 家族以外に子どものことを理解してもらえる場ができ、気持ちが落ちつき、子どもにもゆったり対応ができるようになった。
- 困っているのは自分だけではないことがわかり、孤独でなくなった。自分や子どもを責めず、少し心に余裕が出来た。
- 子どもを否定、自分を非難することから、解放されていくようになったと思う。
- 親の会に参加しているお母さんを紹介してもらい、自分の少し先を進んでいる人に会えて、安心したような、心がまえができたような気がした。
- あせらないで、まつことにした。
- とにかく本人が動くまで待つしかないを基本に、できるだけふつうに接した。
- その子を少しは理解して対応しようと思えた。
- 不登校に対する見方が変わった。背定的にとらえて良い。
- 親の会にたくさん参加した。どの会に参加しても、当時は、皆良いお母さんばかり、常識のある、子どもの教育に熱心なお母さんでした。そのうち他のお母さんの話を聞いていると、疑問がでています。自分が良いと思っている事から、自分の問題点に気付きました。世間で話すと（話しできない）笑われそうで…。親の会ではみな同じような事があり、同感できる。自分の居場所（なんでも話しあえる、話しても安心できる）ができ、楽になった。特に先生には、感謝している。
- 親が続けて行ったのは病院で、子どもの状態や、対応の仕方がわかっていった。
- 不登校の初期段階ですべき声かけや、親の対応が分かっただけでなく、親が他の体験者からのお話を聞くことができたので安心できた。
- 精神面で落ち着いた。でもその先へなかなか進めない。
- 親の思い悩みを聞いて道すじを教えてもらい気持ちが楽になって、子どもの態度を見るのが変わってきた。
‘子どもさんも学校へ行けない自分を責めずずっと苦しんでいるんですよ’ と話して下さった事、今も忘

- れる事はない。 父親は理解できず子どもを責めたまま亡くなった。
- 父親は理解することはなかった。ただただコミュニケーションを一番に考えながら支えていく忍耐の中で自分の思いを吐露できる場所があると気持ちの整理が出来たり涙を流せたりで、子どもにつき合うという繰り返しの中で子どもを受け止める。共に考える。
 - 母の自分は色々考えるが、父はなかなか理解してくれない。
 - 夫婦間で子どものことについて話し合っただけで対応するようになった。不登校やひきこもりが単に本人や家族の責任だけでなく、学校や社会にも原因があることがわかった。
 - 少しは変わったと思うが、なかなか受け入れられない。強迫性障害の症状に対して注意しないで見守るように努力している。
 - 子どもが学校に行けないことは、自分の子どもだけではないので、いつもと同じように日常を過ごせるようになった。
 - 無理に行かせようとすることもやめ、ゆっくりさせてあげる事をした… が、どこへ相談に行っても、子育てを問われ、甘やかし… と言われたりして、学校もまだまだ理解がなく、不安だった。学校に関する事を出来るだけ口にしないようすると、少しずつ落ち着いてきた。
 - 学校への苦言をしない様にした。子供の希望をなるべく受け入れた。待つ事が大事かなと思う様になった（すぐには出来なかったけど）
 - 親が仕事を昼から、夕方～晩までに変わり、子どもの送りむかえが始まったので、時間的には大変でしたが、みんなの心が安定してよかった。
 - 親の会で学んだこと、また本人の入院（18才のとき）などいろいろあり、私も少しずつ学んではいたが、仕事をしており、忙しい中、本人に接していたように思う（十分なゆとりがなかった）。
 - 情報を得ることができた
 - 専門家に相談できたことで安心感が得られた。専門家ではあっても一方的に教えられるというのではなく、「共に考えていきましょう」というスタンスで関わって下さったので私自身ゆっくり考え気付くことができた。

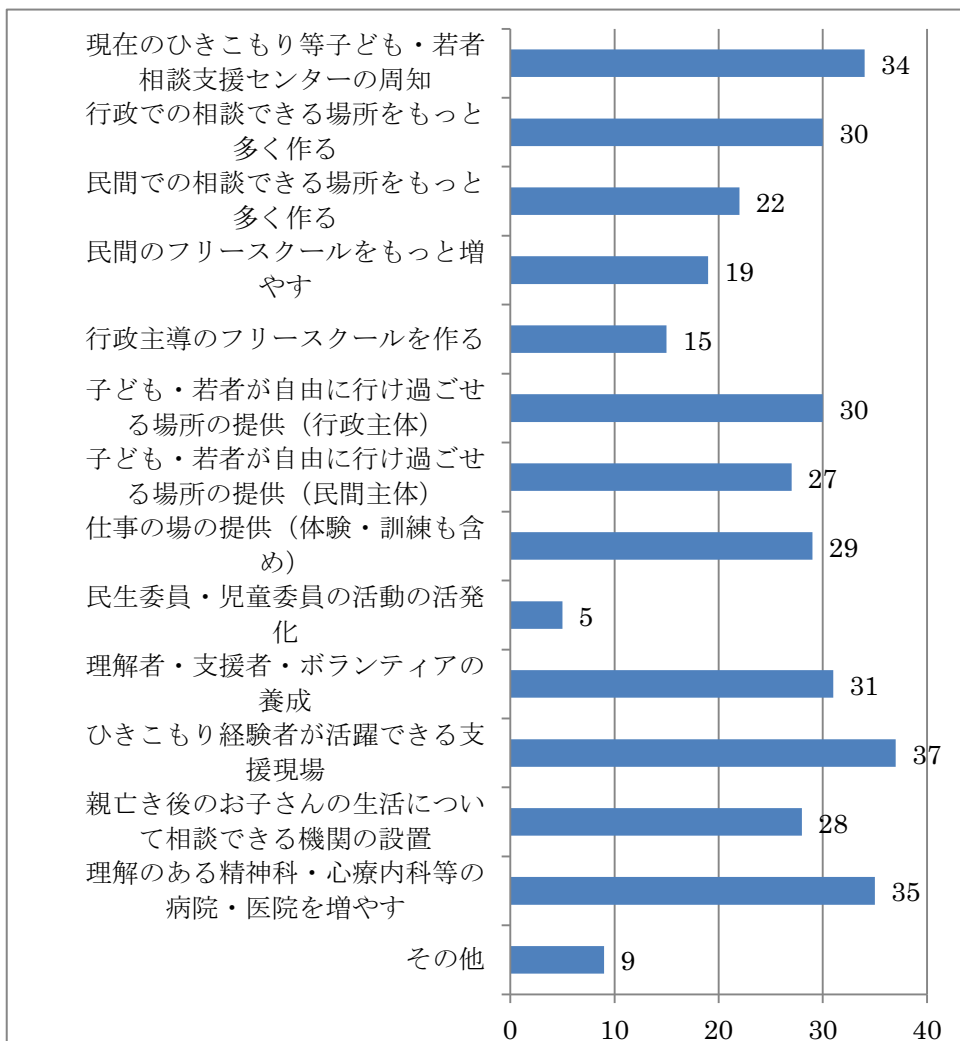
Q20 枚方市では、平成25年4月から「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を開設し、現在枚方市駅前サンプラザ3号館4階の子ども総合相談センター「となとな」内で相談をお受けしています。「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」があることをご存知でしたか。（○はひとつだけ）



Q21 枚方市では、平成25年5月に「枚方市子ども・若者育成計画 ～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」を策定し、計画に沿って施策を進めているところです。「枚方市子ども・若者育成計画」があることをご存知でしたか。(〇はひとつだけ)



Q22 枚方市でひきこもり等の支援を今後もおこなう場合、どのような試みが必要と思いますか。市役所で行うことだけでなく、民間でできると思われることも含めてお答えください。(〇はいくつでも)



その他(具体的に:…)

〇学校や周りの人の正しい理解

○心理カウンセラーの活用

○家族会の紹介とサポート

○行政が場所の提供やお金の援助をしてくださるといい。○枚方市の若者サポートステーションを多用化し、就労だけでなく居場所的な身近なものになってほしい。誰かとコミュニケーションを取り易い場所をつくってほしい（自分一人ではないと思える所）

○人に相談したり提供の場に行くのが嫌な人が、気軽に行ける場を考えてほしい。ひきこもり等意識せず行ける場など。

○学校の先生方に勉強する機会をもってほしい。採用試験で資質を見極めていただきたい。

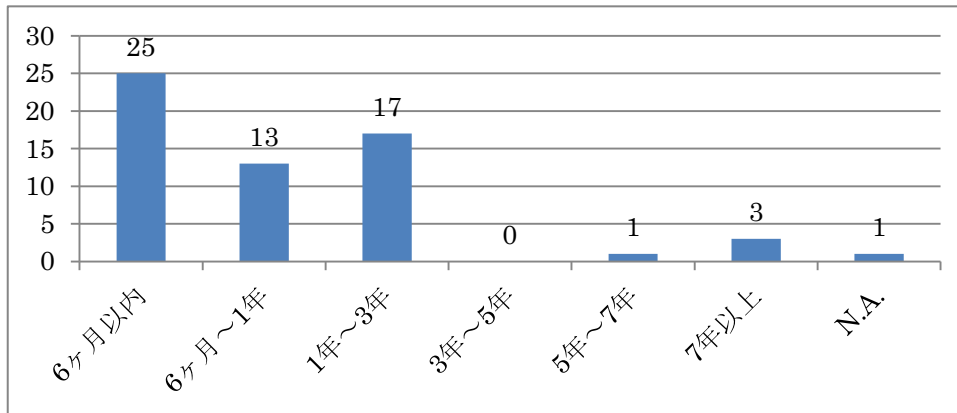
○どうしても当事者や家族がまず相談してからの支援になるが、相談機関につながってからは、当事者への働きかけをどんどんしてほしいと思う。行政主導や民間主体の設問があるが、行政・民間関係なく考えてほしい。でも基本は行政が職員数確保を考えても主体になるべきだと思う。

○民間事業でももらう仕組み作り（フリースクールなどの実績のあるところに居場所）。

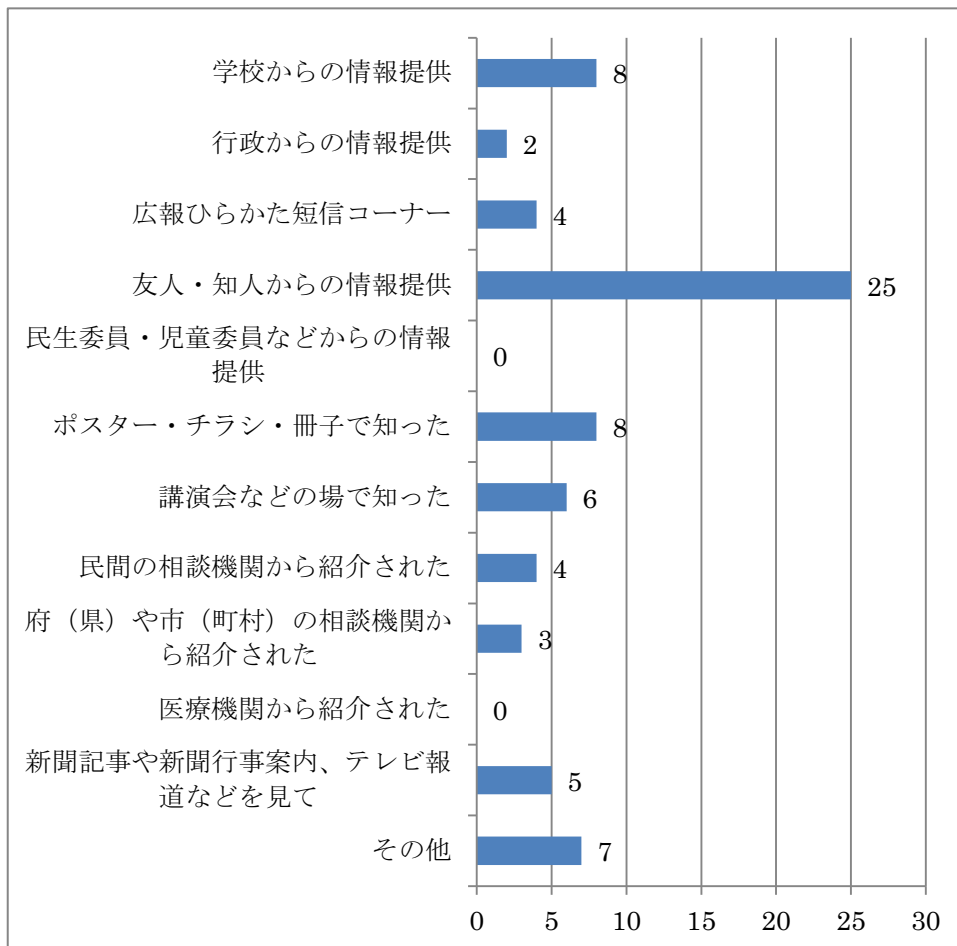
○家族はいくらでも相談に行けるが、本人が自分からはなかなか出て行こうとしないので、訪問支援を強く希望する。どんどん家に第三者が入ってきてほしい。子どもと二人だけだと、息がつまりそうになる。

II. 家族会について

Q23 家族会についてお尋ねします。お子さんがひきこもりや不登校になり、家族会につながるまでどのくらいの期間がありましたか。(〇はひとつだけ)



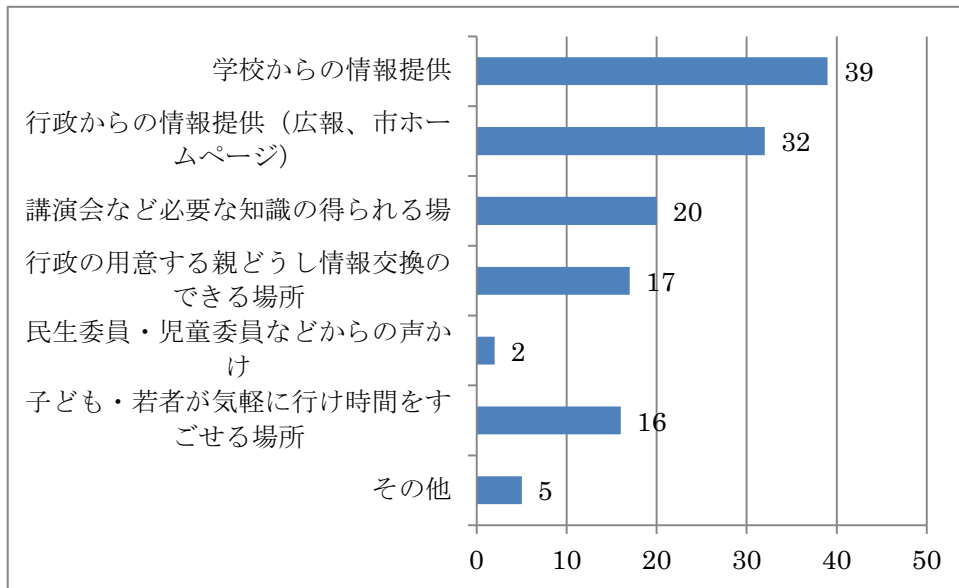
Q24 家族会につながったきっかけについて教えてください。(〇はいくつでも)



その他(具体的に:…)

- スクールカウンセラーからの紹介
- インターネット(2)
- 本人が居場所を求めた時、家族会に入るよう勧められた
- 自ら家族会を探しにいった。
- 自分たちでつくった
- 教員関係者として以前から参加していた。

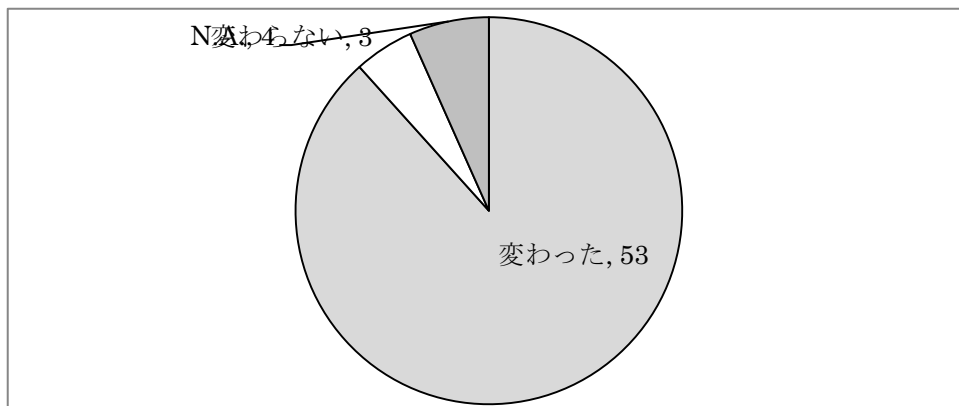
Q25 家族会につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか（〇はいくつでも）



その他（具体的に：…）

- 社会の中にひきこもりに関する正しい理解があればよかったです。（問題行動だと責められた）
- その子をわかってくれて、気軽に参加できる、スポーツや、遊び場、アルバイト先があるといい。
- 定期的に訪問して本人に働きかけてくれる専門知識をもった方がいるといい。
- 学校内に「不登校で悩む親の会」のようなものがあればよかったです。安心して相談できるスクールカウンセラーが学校にいて下さればよかったです。

Q26 家族会につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。（〇はひとつだけ）



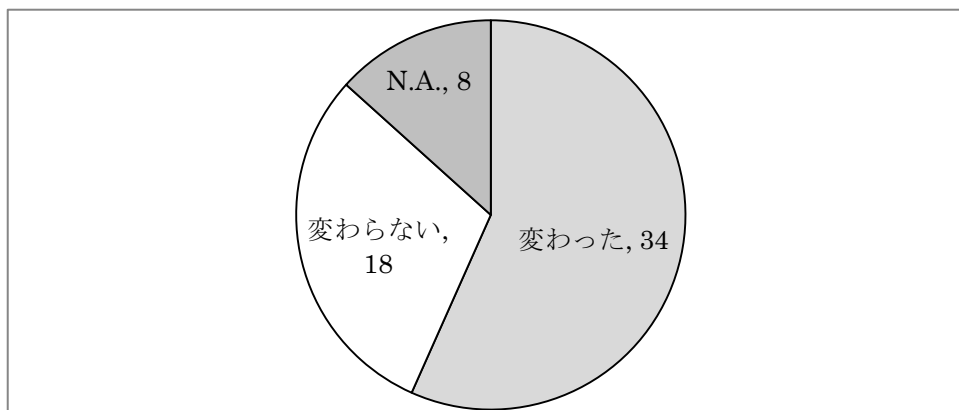
具体的に…

- 辛いのは自分だけじゃない、子どもも苦しんでいる。仲間がいる。仲間と心が通じて分かちあえるので楽になった。
- 同じ状況の人と出会い、互いに励ましあうことができ心が楽になった。親同士で相談できる環境があり助かった。
- 会に参加し、家族に話をすることで、聞いてくれ、行動してくれた。
- 当たりまえであった日常を見直す気持ち。自分の責任で子どもをこのような状況にしてしまったという負い目が軽くなった。
- ひたすら話を聞いてもらうことで、気持ちが落ち着いた。他の方の経験談を聞いて、気づかされること、

- 先の見通し、励まされたことが多くあり、心の寄り処となった。
- 安心して過ごすことができた。
 - 同じ経験をした家族の方の意見は、とても参考になり、カウンセラーの先生のアドバイスも勉強になっている。気持ちが楽になった
 - 本人との接し方、親の考え方、親子の関係が変わった。子どもは親の持ち物ではないということ、一個人間として認める自由。
 - 子どもへの対応方法を理解した
 - 子どもの現状を多少理解出来る様になった。就業を迫る態度を改め、本人を追い詰めない様になった。
 - 参加したことはないのですが、会報はいつも楽しみにしていた。
 - 共感できる人たちにはじめて会った事、親自身自信を失っているの、勉強する事により、親のとらえ方を学んだ。一人ではないと実感した。
 - 自分の状況や悩みを話せたり、同じ悩みを持つ親の話も聞いて気持ちが軽くなった。
 - 気持ちをはき出す場ができ、精神的に少し落ちつけた。
 - 今までより情報を得る事ができたり、定期的に相談できる事で気持ちが楽になった。
 - 同じような環境の方と具体的な話をする事ができるようになったことで、少し気持ちに余裕ができた。
 - 話を聞いてもらえる場所ができた。とても助けられた。他の子どもたちの様子も聞いて、先輩たちから話しを聞き、未来の道が少しずつ見えてきた。家族がまず、落ち着いてゆったりとして、子どもを見られるようになった。夫婦での話し合いもとても大切だと、あらためて思え、孤独感がうすらいだ。
 - 精神的に親が落ち着いた。信頼関係を作ることを大切に。声かけを忘れずしている（おはよう、出かけてくる、ただいま、おやすみ、～をしてくれて「ありがとう。」の声かけ）。
 - 私自身の気持ちが楽になり、いろいろな人の話しをきく事で、やっと息が出来たような気がしました。
 - 1人で思い悩んでいたが、家族会に入り、自分の今までの思いを話し、他人の経験を聞かせてもらい、気持ちが「スーッと」晴れて行った。自分だけが悩んでいるんじゃないことや、答えはいつ出るかはわからないが「あせらず」「ゆっくり」を心に決めた。
 - 家族会につながることによって行動範囲が増えた。積極的に同じ悩みをもつ友を作れて、明るく、普通に日常をおくる事ができるようになった。
 - 同じ悩みを持つ人がいることを知り孤立感が減った。「聴く」ことの大切さを実感し、子どもの気持ちに寄り添う努力をした。さまざまな学びの中から自ら気付くことが多く親の人生観が変わった。きれい事ではすまされない経験・交流の場でつながった親同士なので心から信頼できる友人ができた。
 - 同じ悩みをかかえた親同士が話しあうことで、楽になった。大阪全体の会だけでは物足りなくなり地元でも家族会を立ち上げた。
 - 孤独から脱出できた。初めは、自分の気持ちを吐く場所であったが、家族の接し方、当人の気持ち、学校・病院・居場所の情報など様々なことを話し合える場所となり、同じ境遇の方々との親交も深まり、前向きになった。
 - 同じ状況の人や経験者の方の話しを聞き心が落ちついたり、自分をかえりみたり、子どもの気持ちを考えてたりすることができた。
 - 悩みをお互いに出し合ったり、話す事により気持ちが整理でき落ち着いた
 - 他の場では話しにくく、話しても理解してもらえない悩みを話し、受けとめてもらえ、また他の方々の話からも得ることが多く、気持ちが落ちつき、子どもとも、ゆったり話せるようになった。
 - 安心して話せる所なので他の経験者の方々の話を参考にし視野が広がっていった。

- 話をしてもわかってもらえないことが多かったので、学族会で共感してもらえることに少し安心した。
子どもはおかしくないと思った。
- 先にひきこもりになった人の話を聞き、1人でないと思い、気持ちが楽になった。
- その子をそのまま、受け入れることができるようになった。
- 登校拒否の子どもを受容できるようになった。
- 母親は交流会に行き、子どもの気持ちもわかるようになった。
- 自分の意識が変わった。本人を変える方向ではなく、自分の考え方や行動が変わり、気持ちが楽になった。
- 精神的に落ち着くことができた。
- 心から受入れるには時間が必要。子どもを信じる事で今では、仕事はしていないけれど、うちの息子は大した子だと思える様になった。
- 自分の話、家族の話を、何度もたくさんの時間聞いてもらった。話すことで子どもと距離をとれるようになった。自分や子どもは一人ではないと感じ安心できた。
- 1回しか出席していない。情報は知りたいが私は人前で話すのが苦手な長時間の緊張で体調が悪くなる。
- 自分は1人ではないと思った。子どもが1番つらいことがわかった。
- 同じ悩みをかかえる家族の話を聞き、参考になったり、あせったり…。でも、自分だけではない、何かあっても相談できるという安心感が持てた。
- 子どものことに口出ししないようになった
- 本人の入院以降は、その病院の家族会に参加しはじめた。参加されている方々の話を参考にしながら、本人にも接していけるようになってきたと思う。
- 家族会につながったといっても、1回しか、まだ行ってないので、またの機会に参加したいと思う。
- 共感と受容。見守る事が大事だと思うようになった。
- 母自身が、同じ悩みを持つ人との会話で救われた

Q27 家族会につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。(○はひとつだけ)



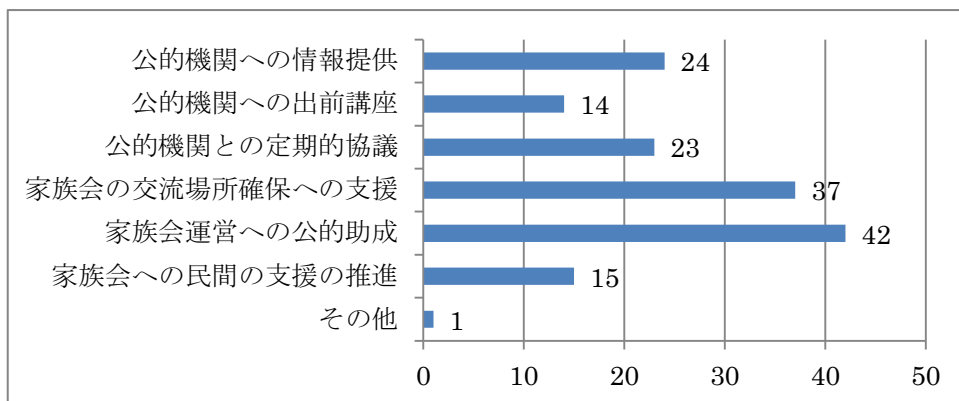
具体的に…

- 中学校の先生とのすばらしい出会いにより、心がほぐされて、高校進学につながったことは変わったこと。
(それは親が親の会につながった結果かどうかはわからない)
- 他の家でも自分と同じように悩んでいて、親目線での悩みや子どもからのしてほしいことなど、お互いの抱えていることを少しずつ理解することができた。
- 少しずつホッとした表情、態度に変化していった。
- 親の気持ちが楽になり、接する時にも否定せず肯定的に対応することを心がけたことにより、本人も少し

- づつ自信を持ってきていると思う。
- 少しづつ、親とリラックスしてしゃべれるようになった。
 - すぐ変化があったわけではないが、親から落ちついて時間を過ごす事で子どもの行動を理解できる様努めた。子どももゆっくり時間を過ごした様に思う。じっくり時間をかけた。
 - 自己肯定ができるようになり、進路を考えられた。
 - 母親とは話すようになった。飼い猫を通して笑いあえるようになった。共感できるようになった。
 - 子ども同志の交流の場を持つ事により、同年代の友人も出来、悩みを相談したり、自分だけではないと安心感を持てたのではないかな。
 - 親に少し気持ちの余裕ができたおかげで、子どもも安心して家にいられる様になったと思う。相変わらず無理をして学校へ行こうとしていたが、必要以上に怖がったり、手を洗いすぎる様な行為はなくなっていた。
 - 親が変わったので子どもも安心した様子。
 - 全国不登校の宿泊会の費用を出してくれた。本人は行きたがらないが、親が元気になってくれたらと願ってくれたのでしょうか…。
 - 自分はこんな人間と認め、自立するための行動に出た。
 - 子どもも一緒に参加出来た。
 - 交流会に参加するようになり知り合いの人が出来た。
 - 少しずつ、良い方へ。ほとんど外出しない→週1回程度外出する。少し明るくなった。昼間に起きていることが増えてきた。
 - 自分のやりたい事を、自分の力でやり通す。
 - 親が覚悟を決めて、子どもと一緒に楽しいことをしようとしてから、子どもも、ほっとしたようで、落ちついていった。あせらずじっくりいこうと思ったよう。
 - まだ本人は知らないの、また、隠しているわけではないが、親が通っていることを知ったときどう反応するかわからない。親が変わることで本人の気持ちに柔らかさがでてきたような気はしている。
 - 子どもには家族会や相談に行ってる事も隠していた。(話しにくい状況だった為)
 - 子どもは家族会のことは知らなかった。
 - 子どもは出席していない。
 - 学校へは少しだけ行くこともできるようになったが、今までと変わらなかった。
 - 高校は卒業できたが、その先(進路)が決められなかった。そして現在に至る。
 - 精神的、肉体的に安定した。
 - 親の気持ちや気分が変わった為か、子どもの態度も違って見えた。
 - 親が落ちつくことで、子どもも安心して休むことができ、少しずつ元気に行動できるようになってきた。人に対する信頼感をとりもどせるようになった。
 - 親が動じないで広い視野で受けとめることで、徐々に外へ出れるようになった。子どもは安心して家に居るようになった。
 - 子どもは幼いという事もあり、なかなか大きな変化はなかった。(ただ親が孤独に悩んでいる状態では長い時間がかかっていたかもしれない)
 - 親が落ち着くことで子どもも家庭が安心の居場所となり自分のことをじっくりと考えられるようになり、自立の道へと進めた。自宅で家族会の行事などを行うことが多く、人の出入りを警戒していたが、皆さんがさり気なく自然に接して下さったので次第に心を許すようになり、人への信頼感が生まれた。

- 家族会・親の会などにつながって、すぐに変化することはない。ただ、親が落ち着くことで、子どもがゆっくり家を居場所に来る。ひきこもること自体は、その子にとって必要なことで、その時間を安心して過ごせることが大切であるので、それが出来たことが、子どもの成長につながったと思う。
- 家族会の会員が自宅にも来るようになり、外の風が入ってくることで、子どもも動き出すきっかけになった。
- 家族会で聞いた色々な方の事例を伝え、本人の意見を聞いたり、考えさせたり、出来た。本人も、自分だけではないことや、将来の進路の参考にして気持ちが楽になったのではと思う。
- 親の気持ちが安定する事で、子どもへの対応が変わってきたので、本当の気持ちをちゃんと話すようになった気がする。親に余裕がないと、何を言われても、不安やこわさから否定的な感じや、怒りっぽくなるので、話せなかったのかなと思う。
- 親の気持ちが楽になる分、子どもにやさしくなれる。子どもにトゲトゲしさが少なくなってきた。
- 時間はかかったが、「最初は自分の事を知られたくない」と思って拒否していた中、次第に親が家族会でおしゃべりできる所ができ、知り合いができ、気持ちが楽になっていく、それが、子どもを認められるようになり、信じる事ができるようになった事により…子どもも少しずつ、部屋からでてきて、そのうち図書館に行けるようになり…現在につながった。
- 家族会へは母親参加のみなので、家族会では子どもは変わらなかった。母親が変わったので、すこし子どもにも変化はあった。(規則正しい生活をしようとしてる。家からは出られないが、掃除してくれたり洗濯物を入れてくれたりする)
- 2回目の入院以降、いろいろな事がありましたが、病院の家族会への参加や、退職後の時間的なゆとりなどから、本人ともゆっくり接することができるようになった。本人も少しずつ心も落ちつき、家事の手伝い等も増えてきた。交流会のニュース等もいつも参考になった。
- 少しずつ変わったのかもしれないが、変化が見えなかった。

Q28 枚方市家族会連絡会からの質問です。家族会は、困難を抱えた家族への周知が不十分で、運営もボランティア中心で支援体制がありません。家族会の周知や支援体制などの要望を具体的にお知らせください。
(○はいくつでも)



その他（具体的に）

- 不登校の親に、家族会があることを、学校から知らせてほしい。参加する、しないにかかわらず、相談したり、話し合う場所がある事を知らせてほしい。
- いろいろな家族会があると、どこかで居心地のよい会に出会えると思うので、「こんな会があるよ」と知らせる事が大事だと思う。運営への公的援助はぜひほしい（でも口出しはしないで）。

○まずは参加する親が「ここに来れば安心して安全で何をしゃべっても受けとめてもらえる」と思える場所と空間を保障してほしい。

Q29 最後の質問です。現在、子ども（当事者）やご家族が感じておられる心配なこと、あるいは変化のきっかけとなる（なった）こと、Ⅰ、Ⅱの設問では伝え切れなかったことなど、ご自由にご記入ください。

○学校の先生は多忙で、学校に来ない子どものことまで対応できないというのが本音ではないか。また、不登校への正しい理解がないために、子どもや親が傷つくことをたくさん見聞きしてきた。そんな中で我が子は1人の中学校の先生との出会いで元気になっていった。成人した今も親子でつながっている。運がよかった。感謝しかないが、それですませていいのかとの思いもある。運・不運で子どもの将来が決まるのはおかしい。

○良い相談機関があれど、本人が外へ出なければどうしようもなく。中学校から学生ボランティアさんを連れてきて下さったのですが、会うこともせず。14、5才の頃は、どうにもこうにも仕方がなかった。なんとか担任の先生には心をゆるしていたのか、お話して受験し高校だけは行った。でもまたそこで、つまづくことに。そこから5年間暗い日々、辛かった。今はバイト生活、何を考えているのかは分からないが、真面目にしているので、良しとしている。

○高校を不登校で中退。大検（高認）の資格をとって大学に入学した。今はデザイナーとして正社員で働いている。学校に行けなくなった当初は、「まさか自分が…」と自己嫌悪で苦しんでいたが、学校カウンセラーの方や家族会の方々と出会うことで少しずつ未来への一歩を進むことができるようになった。あれから10年経ちますが、不眠症や対人関係での悩みもほとんどなくなり人生を楽しむことができている。やはり自分の苦しみを理解してくれる人が1人でもいると、生きる希望が持てる。そして家族と当事者の橋渡しを行政や民間でできる場所が増えると現状の解決につながるのではないかと思う。不登校、ひきこもりになっても生きる術はたくさんある。“人との出会い”が解決してくれると私は思う。

○年齢と共に少しずつ変わりつつある。家族も同じく年々共に気持ちが変わり、少しずつですが前へ本人は進んでいるので、周りも落ちついて見守れるようになった。少しずつ前へという状態なので、将来、社会へ出て仕事をする時、ついていけるのかなあと心配になることもある。

○学校へ行けなくなった子どもへの初期対応をお願い出来る学校関係者の方は非常に少ない。もちろん親・兄弟にとっても初めての事ですので、わからない事だらけで手さぐりである。家族で不登校の子どもを支える難しさ、「きょうだいへの風当たりがあったり、病気だと決めつけられて病院へ行く事を強要されたり」言葉にはつくせないほど考えて考え抜く毎日だった。家族会で出会った方々がいらしゃったから、がんばれたのだと思う。子どもが学校へ行きにくくなったり、行けなくなったり、そんな時のスムーズな行政民間一体の流れがあれば、遠回りしないで救われる家族もあるのではないかと思う。

○こういう用紙を書くことで「あーうちは問題のある家庭なのだ」と落ち込んでしまう。協力を拒む気持ちではなく、かなり元気になったつもりでも、まだ心の整理がつききれていない、自分の気持ちに気付かされるということ。つながってくださった方々のお陰で、親が、少しずつ元気になり、明るい空気を家庭に注ぐことで、本人も家族も同じように明るくなっていったと感じている。” 視るは合わせ鏡” 本当にその通りだと思う。習い事もし、ごはん作り（おこづかい発生）もしている本人に「学校へ行かなくてもいいよ」という気持ちで接することで心が落ち着くが、スクールカウンセラーや担任の先生の「学校へいくことがマル」という立場での接し方に当然かと思いつつ、心の置き場所がしっくりこないのが本音。家族会にも、親や子どもにも支援が少ないことを痛感している。

○不登校は学校に行ったらすべて解決するというものではなく、当事者である子どもが自分の力で自信をも

って生きていくことができれば、形はどうであれ（学校に行ったとか就職したということに関係なく）OKだと考える。

○親自身は、「親の会」で落ち着くことができた。子ども（当事者）自身は、同じ立場の友人に出会い、話ができ、その人から影響を受け、専門学校に入ったことでよい方向に向かった。子ども自身の気づきがあったこそ、専門学校→若者サポートステーション→就職支援センターへとつながっていった。本人が情報を得て、意志を持つことが大事。

○対人関係に不安があり、社会生活に支障を来し家で過ごしている。今後、親も高齢になっていき、子どもの将来が心配である。心療内科に、一度本人も受診したが医師とは合わずだった。相性のいい医師に出会えるまで受診するエネルギーが本人にあるのか。日常生活の中で人と接する機会があるときに少しずつ対応し、自信をつけていってほしい。

○親がひきこもりについて学習し、又、親として、自分磨きをする内に子どものことから少しずつ、距離が、置けるようになり、親も子も一人の人間として、自覚出来たことにより、本人がいつの間にか、何かに気づき動き始めたような気がする。

○子どもの今後の生活が自立できるか。

○親が死亡後子どもがどうなるのか心配

○親亡き後の子どもの生活問題、当面の生活支援。現状から親の生存中には自立の見込みが立たないので、長期的視点での行政からの支援体制が必要。

○今振りかえっても“これ”といったきっかけはわからないが、必ず出口はある。出口のないトンネルはない。子どもは必ず立ち上がる。

○相談機関の大切さ。親自身が勉強する事。仲間づくり。親も子どもも自己肯定感についてよく考えられるようになった。悪い事ばかりではない。

○大学で友達が出来ず大学に通い続けるかどうか心配。何とか（気の置ける）友達や仲間が出来るとうれしいのだが。

第三者の介入が無ければ変化は難しいと思う。

待つ「見守る」だけでは前に向きにくいもの。第3者が必要で、まず、学校にボランティア的な訪問をしてくれる方を設けてほしいし、市にも数歳年上のお兄さん、お姉さんのような子どもに近く話しやすいメンタルフレンドを設けてほしい。居場所もどれだけ探しても見付からず残念だった。市役所の相談室に本人が相談に行くのはかなりハードルが高い。

○心配なことは、本人が自分の選んだ不登校という道を否定的にしかとらえられないでいること。自己否定から解放されないままつらい毎日を送っていること。それによる自暴自棄になってしまうのではないかと。まだまだ先は長いと、少しずつ受け入れる覚悟のようなものが親にできてきて、カウンセラーの先生には“お母さんが変わった”と言ってもらった頃が同じくらいの時期でした。なかなか行きたがらなかった中学時代のカウンセリングだったが、卒業してから「あの先生に話したいな、会いたいな」と言うようになった。いつも同じ態度で（平常心で）見守る、本人の意思を尊重することを徹底して教えていただき、それを心掛けるようにしている。少しずつですが、本人との会話が増えてきている。

○親はどうしていいかわからず、うろたえてしまう。

少し落ちついてきた時に相談する場所や、家族会を具体的に、教えてほしい。最初はなかなか参加できなくても、相談する所があるというだけで、少し安心できる。講演会のお知らせもぜひ伝えてほしい。

足どりが重くても、参加してみようかなと思いはじめている。

親が参加しておちついていくと、子どももおちついていく。子どもも、外へ目を向けて、動き出す。

いろいろな道がある事を、親から伝えたい。これも親の会に参加したり、相談センターに親が行く事で伝えられる。

☆まず親の話し合う場所を通じて親が元気になり、次に、子どもの居場所が必要になると思う。

○子どもは中学から不登校になった。友だちに連れられてみんなが帰ってから学校に行き、校長先生から卒業証書もらった。その後、3年間、学校には行かず過ごした。18才の時に、急に学校に行くことにし、今高校に通学して2年目になる。同級生の友だちは大学生。親としてもとても不安で、将来どうなりたいたのかなと毎日つらい日々を送っていた。その中で家族会に参加したり、枚方サポートステーションで相談を受けたことが、とても良かった。「子どもを信じて待つ。それだけではだめで、たまには思いをきいたり、困ったことがあれば手助けすると安心感をもたせることも大切、親も自分の人生を生きる。」等々沢山の事を学ばせて頂いた。これから子どもは、電機関係の大学にいき、就職したいと考えている。それが叶うように願うのみ。

○家族が感じている心配なことは、親の死後どう生きていくのか、これからどう生きていくのか、今のままでいいのかなど話し合いができないこと。それらしいことを言うと、だまってしまう。聞くこと自体が子どもを苦しめるのではないかと不安になる。良好な関係が悪くなるのではと不安になる。突っこんで話しできない弱点が親にある。他のきょうだいからは、“甘やかしていた”など言われる。一方で、今のままの状態でもいいのではと、思ってしまう。父母と本人の3人の今の暮しが、親としても心地いい。年金生活になって、ゆったりと色々な話ができるようになった。夫婦2人切りの旅行も新婚旅行以来、初めてした。父母がいて子どもがいて、猫がいる。少し離れた所に他のきょうだい家族がいる。親同士の仲間もいる今の暮しが快適。このまま続いてほしい。

○親亡きあとのことを考えることがある。それまでには自立して欲しいと願っている。子どもが元気になってきたのは、自分を認めてくれる人に出会えたからだと思う。もう少し早く出会えていたらと思いますが、本人の意志を待った結果だからと私自身を納得させている。

○ひきこもり不登校に対する支援が強化されるのはうれしいが、そういう子ども達を生まないような、一人一人を大切にするような環境づくり、例えば少人数学級の拡充、教師がゆとりを持って子供に接する事ができるような体制に力を入れて頂きたい。

○小学校や中学校としてのあり方、教育自体が、不登校について検討してほしい。そして、教員をもっと増やしてほしい。

○子どもは単位制高校を経て、今大学生で、まだ休むことなく頑張ろうとしている。ただ、親の離婚を機に今まで親に遠慮して言ったり、態度に出すことができなかった事を、少しずつ表現する様になった。小学校の頃に出していてくれればと思うが、その頃は親側も受けとめる程の余裕がなかったのだと思う。そんな中、親の会に出会えたことは、一人ですっと頑張ってきた親にとっては、とても有難いことだった。大学卒業後は、毎日働くことは考えないようにしている。ゆるやかに就業できるようなしくみが、たくさんできればよいと思っている。枚方市のこの様な取り組み、とても素晴らしいと思う。よい感じでひろがっていくことを願っている。

○現在の中学校の実状がどうで、どのようなしんどさがあるのか知りたい。また不登校にならないかどうか心配。

○本人は今パートで働いていますが、薬をのみながらで、一般の中で働いている。精神的に不安定な時があり仕事も1年、2年でやめている。同じ様な人達と働ける場所があればいいのにと思う。

○小学校低学年から不登校。早くおわると先輩方々から言われたが長く、今、20代。小、中ほとんどいかず、高行かず、大学もなく…せめて高校だけでも願ったけれど。親として、学校はいらない!!と思って苦し

んだ。今は学校に行かなくても、かけ算～パソコン等々自分でできるようになっている。色々こころみた
が、私も自分の子をもってみて、初めてわかった。不登校のイメージががらっと変わった。経験してみな
いとわからないだろうなあ…と思う。でも、よりそって、あたたかく聞いてくれる人がいてくれることが、
本当に支えとなって、何とか生きていけると思う。長い道のり。できれば小学生は小学校の時に行くよう
にがんばれてたらなあと思う。行かなくてもいいよと言えるのはなかなかできない。言える人はえらい。
感謝。

○本人は、1人で生活しているが、友人や家族との交流が少なく、結婚もしないとすると、子どもの老後が
心配である。周りに仲間がいてほしい。ひきこもりや不登校ではなかったが、人間関係がうまくいかず、
これから先の人生を考えた時、不安が多かったので、つどいに参加した。

○時々、支援情報を子どもに働きかけて反応を見る。反応をみて、支援者につなぐ。待つ時間と、働きかけ
るポイントのメリハリ。本人が「楽しい」と思える事を探す。知ろうとする。「こうあるべき」という思
い込みをすてる。

○本人と家族だけでの話では、なかなか前へ進めないのが現状。どれだけ、こちらが勉強して、アプロ
ーチしても、本人に動きだす力がなければ、ずっとトンネルの中にいる様で、自分の精神がいつまで持つだ
ろうかと不安でいっぱい。相談機関というより、しっかりみてもらえる、精神科の先生や、訪問していただ
ける方などを、強く希望する。とにかく、家の中に、違う風を吹き込んでくれる人がほしい。自分一人の
力では手に負えない。この先どうなるだろうと、不安ばかりがつのる。

○家族会で良い方々に出会えたことに感謝している。

○子どもは元気になったが、不安定就労であることは今後も続く。若者世代全体の問題ともいえるが、個人
や家族だけではがんばりきれない部分があり、それをどうしていくか考えている。

○人それぞれ感じ方も不登校になるきっかけも接し方も違うと思うが、最初に不登校等の知識がなく接して
いた時間が長くあったので、不登校等の知識をもっと早く知ることができたらと思った。学校の先生もわ
からないようなので…。知っている先生はほんの一部の先生だったことが残念。

○教育相談親の会につながり、20数年。親の会に行っていた子どもは当事者と結婚し、うつ病になりながら
も結婚生活を続けていたが、最近は少しずつ元気になっている。親もやっと落ちついてきている。ひきこ
もりから外へ出る事はむずかしいと思う。気軽に、地域に居場があればいいなと思う。親の支援もほしい。
相談機関に行くとお金が大変、公的支援がほしい。

○早い時期に親の会につながることができて、親も子も比較的落ちついてすごすことができ、当初はいじめ
で深く傷ついていたが、病院でのカウンセリング治療もうまくいき、数年後には、普通に活動ができるよ
うになれた。今は、結婚し、子どももさずかり幸せにしている。

○強迫性障害がだんだんひどくなっており、イライラする毎日で、親の体調もよくない。子どもは保健所か
ら来てもらうことも病院へ行くことも拒否してる。どうなるんだろうと毎日が不安。父は見守るしかない
と言う。

○一度立ち止まった子どもが、時間、気力、体力等々に折り合いをつけて一歩踏み出すにも色々な面におい
て相当な気持ちの葛藤があつての事だと思のですが、またその先に進んだとしてもさまざまな困難や理
不尽な事に出会うと思う。直面した際、本人の考え方の切り換えだったり対処の仕方等々を身につけて少
しずつ自信をつけ、社会に適応して行くことを望んでいる。その為には親離れ、子離れを念頭に置きつつ
支えて行く事かなと思っている。

○当事者が働ける場所の確保をして欲しい。学校へ行けなくなった時、学校側で何回も定期的に親、教師、
保健の先生、あるいはカウンセラーなどと数人で会議をするシステムを作るといいと思う。オープンに。

- 不登校になって、一番困った事は、突然学校へ行けなくなり、何をどうしたらいいのかわからないという期間が本当につらかったと感じている。相談するにも、どこにすればいいのか、学校とは、どの様に関わればいいのか…。今、思う事は、学校ですぐにいろんな情報が得られればと思う。
- 子どもに学籍がある間は学校の先生が何よりの頼り。親の悩みをしっかりと受け止めてほしい。担任まかせにするのではなく、学校全体で不登校対策を進め、担任を支えてほしい。先生たちの多忙さは十分知っている。その上でのお願い。親の会や関連の講演会などに参加してほしい。共に学んでほしい。学校を「しんどい」と感じている子どもは多いと思う。学校が（にではない）子どもたちの安心の居場所であるような学校づくりを切望する。
- 学籍を離れ「ひきこもり」となった子をもつ親の不安は大きい。家庭、地域、専門家との連携が大事と思う。
- 気軽に相談できる場、子ども（青年）の状況に応じてスモールステップの場がいろいろ、いっぱいあるといいと思う。とにかく親は年をとる一方で「自分が死んだら…」と不安がいっぱい。それは子ども自身も同じで身近な青年の自死の報に接すると他人事ではないと感じる。「まあ何とかなるか」と思えるようなものが1つでもあれば、親も子もそれを支えに生きていける。
- 自己責任論ばかり声多角高く言われる世の中は誰にとっても生き辛い世の中。進路相談についてはせかさず丁寧に対応してほしい。進路情報はできるだけ詳しく把握しておいてほしい。
- 不登校やひきこもりがおこる原因は本人や家族の責任だけではないことが、社会の一般常識となるようにアピールしていかないと、親や子どもは追い詰められる。官と民の協働でコミュニティで不登校やひきこもりの家族を支えていくしくみを強化していくことが大切。不登校の進路やひきこもりの自立などは、学校や企業の情報や協力なしではできない。ネットワークとして特に企業の参加が求められる。
- ひきこもりも不登校も、受け皿や相談機関があることは知っていた。実際、家族がそうになって初めて、学校・行政・医療機関と本当に色々と門をたたいた。早期解決に努めてましたが、かえって逆効果になることもあるように思う。又、本人が動かない限り、家族の無力感は大きいもの。まだ、本人が回復途中の段階なので、コレ！と言える特効薬や施策は思いつかない。ただ当初、失望のどん底から、今日に至ることが出来たのは、やはり周りの方々の支えだった。スクールカウンセラー、行政の相談機関、家族会で、自分の気持ちを吐き出し、家族や子どもの変化を経年見守っていただけた事を本当にありがたく思っている。当事者やご家族の方が、一日も早く相談機関や信頼できる方とつながり、ストレスが減少され、元気に過ごされることを切に願っている。
- 不登校になると、まず、学校に相談するが、その時に「様子を見ましょう」は、何の解決にもならなかった気がする。でも、不登校になりはじめの子どもは、石のようにカタくて、まったく動かない…。今でも、どうしたら、良かったのかわかりません。小学校時代は、子ども達が帰った後の教室に週2回つれて行き、先生と会ってもらった。中学校の1年の先生がとても熱心で、英語を教えてくれて、学校には行けなかったが、週2回適応教室に行けるようになり、2年の先生は社会を教えてくれて、この先生との関係が、勉強をしようと思ったきっかけのように思う。親の会に行くようになり（子どもが6年生のとき）、私は仲間もできて明るく楽しくなりましたが、問題が解決するわけではなく、本人は何も変わりません。結局、親がその場で、変わっていき、気持ちなどを考えなおし、子どもとの関係を良くしていくって事なのかなあ〜と思った。でも、あの時の私の灰色の心を、まったく笑うことのできなかつた私を助けてくれた、親の会のみなさんには一生感謝している。
- メセナでの講演会の後に自主活動、親の会ができ、もう20年近くになる。メセナの部屋の利用できない日とか、部屋を借りる手続きなど、問題があった。カウンセラーの先生が、ボランティアで参加して下さ

り、私達親はどれほど助けられたでしょう。私の話をしっかり聞いて下さり、広い視野をおもちでそれを受けて、現在の私があると思う。20年近く前にたくさんの親の会に参加した。大阪市内京都市内など…。親の会のお母さん達は熱心な方が多く良い人ですが、時々もつ話題の疑問点から自分もやっている事に気づく事ができてよかった。ただ、会の中には、さまざまな考えの方が、おられる事にも気づきました。不登校、ひきこもり始めは、人に知られたくないので、ご近所の人から避けていた。地域の民生委員さんや児童委員さんなどへの情報提供や来ていただくのは…うれしくありません。

○子どもが中学に入学した頃より、気持ちの不安定さや自分の思いをことばにできない様子がでてきた。両親がくみとれず学校生活をつづけさせる事により、子どもは怒りや悲しみをぶつけてきた。でも母親が友人・知人“となとな”でカウンセリング、アドバイスを受けて考え少しずつ子どもの行動やきもちを理解しようとしていると伝わり。子どもは少しずつ安心し、浮きしづみをくりかえしつつ、現在はアルバイトに自ら出れるようにまでなった。“となとな”では子どもの事だけでなく、私のこと、家族や実家の悩みまで聞いていただき、そのつどの確かなアドバイスをいただいて。とても励みになった。感謝している。今後もお世話になる事が出てくると思う。よろしくをお願いします。

○高校を卒業してから、バイトにも行ってくれないので親がいなくなってからの事などが心配。買い物に外へということもなく、全く外へ出ていない。高校の時の先生からのメールに返事を返さないの（友達もいなく高校の時の先生だけが、私以外の相談できる人）困る。バイトもしたいみたいですが、あまりコミュニケーションができないみたいで、汁をかくみたいで、なかなか行けないよう。いつか外に出てくれる日が来るかなと待つ、約10年経った。なかなか難しい。最近は私も忙しく子どものことはほったらかしだ。

○私は市外在住だが、枚方市の不登校、ひきこもり等への取り組みが非常に進んでいると思う。現在は病院の家族会、保健所のひきこもり家族会に参加している。在住の市でも枚方市の進んだ取り組みに学んで、取り組みを少しでも広げられるように、努力していきたいと思う。私の家は現在子どもと二人暮らし。月1回は通院。少しずつ、家事もできることを手伝ってもらい、互いに認めあって小さな喜びを大切にしていきたいと思っている。最近読んだ『何度でもやりなおせる』（クリエイツかもがわ）、この本がとても参考になった。

○ひとりぼっちの親はわが子が不登校になった苦しさの中で、自分の子育てを責め、わが子を責め、非協力的な夫（つれあい）を責め、自己否定のかたまりになっていく。親の会で同じ苦しさを持つ仲間に出会い、「わたしだけじゃなかった」と心がほどけ、気持ちが楽になり、やわらかい心でわが子に向き合えるようになる。枚方市が家族会を大切に育ててくださるよう心からお願いしたい。

○学校の先生はあまり発達障害を知らない様子。40人の中の1人なので、先生はゆっくり本人には関われない。フリースクール的な所が無料であればうれしい。

○先が見えないのが不安。たとえば親がなくなった後など。

○不登校やひきこもりについて、経験したものしかわからない辛さ…。もっとまわりの人の理解があれば、救われたこともたくさんあったのでは？と思う。そういう子もいるんだなあと思ってもらいたい。ひきこもりについて親も勉強不足なのではと思いますので、専門の方の話等、学べる場が増えていくことを望む。どうしていいかわからず、まわりにも話せず悩んでおられる方もたくさんいると思う。勇気を出して相談にいけるよう、ひきこもりがマイナスイメージにならないよう、何か方法があれば、親も子も元気になれるような住みやすい地域が必要なかなあとも思う。あと、どうしても働くことが出来ない状態にある子どもについて、国の援助があれば、少しは安心できるようにも思う。

平成29年7月6日

ひきこもり・不登校等家族会会員の皆様

枚方市子ども青少年部
子ども総合相談センター所長

ひきこもり・不登校等に関するアンケートへのご協力について（依頼）

日ごろは、本市の青少年行政にご理解をいただき、誠にありがとうございます。

さて、枚方市では平成25年4月に「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を開設し、5月に「枚方市子ども・若者育成計画 ～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」を策定して、施策を進めてきたところです。

今年度は、この計画を策定して5年目になること、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターでの取り組みの中で課題が見えてきたことなどをふまえて、改定することとしました。

計画の改定にあたっては、ひきこもり・不登校等の当事者やご家族の現状や意見をお聞きしたいと考えていたところ、枚方市ひきこもり家族会連絡会から、各団体の会員の皆様にアンケート調査へのご協力を呼びかけてくださるとのお申し出をいただきました。

アンケート調査の結果につきましては、個人が特定されないように集計し、今後のひきこもり等の子ども・若者に関する施策に活用させていただきたいと考えています。

お忙しいところ恐縮ですが、裏面の【記入上のお願い】をお読みいただき、別紙のアンケートにご記入の上、同封の返信用封筒にて、できるだけ早くご返送いただきますよう、よろしくお願い申し上げます（最終の〆切を9月末日とさせていただきます）。

ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

（担当：奥田、足立）

〒573-0032 枚方市岡東町12-3-410 サンプラザ3号館4階
子ども総合相談センター「となとな」内
TEL: 050-7102-3228・FAX: 072-846-7952
E-Mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp

ひきこもり・不登校等に関するアンケート

ご協力いただいたアンケートについては、統計的に処理し、個人が特定されないようにいたします。また、調査結果は、枚方市のひきこもり等の子ども・若者に関する施策を進めるために活用させていただきます。

次の【記入上のお願い】をお読みいただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

【記入上のお願い】

- 1) このアンケートは、ひきこもり・不登校等の子どもを持つご家族を対象に、
 - I. 子ども（当事者）・家族について
 - II. 家族会についておたずねする設問内容となっています。
- 2) 別紙、アンケート調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に封入いただきポストにご投函ください。データ作成の関係上、できるだけ早くご返送いただければ幸いです。
- 3) お答えは、当てはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- 4) ご回答いただく○印の数で、質問文の終わりに（○はひとつだけ）とか（○はいくつでも）と示しているものは、それに従ってご回答ください。
- 5) ご記入は、質問の番号や矢印（→）の指示にそってお願いします。
- 6) 「その他」をお答えになった場合は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 7) 回答に迷う場合は、あなたの気持ち、考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- 8) できるだけ全部の質問にご回答くださいますようお願いいたします。

I. 子ども（当事者）・家族について

Q1 お子さんの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

Q2 お子さんの年齢をお答えください。

- 1 14歳以下 2 15歳～19歳 3 20歳～24歳 4 25歳～29歳
5 30歳～34歳 6 35歳～39歳 7 40歳～44歳 8 45歳～49歳
9 50歳～54歳 10 55歳～59歳 11 60歳以上

Q3 ご記入者とお子さんの関係をお答えください。

- 1 父 2 母 3 祖父 4 祖母 5 その他（ ）

Q4 ご記入者の年齢をお教えてください。

- 1 34歳以下 2 35歳～39歳 3 40歳～44歳 4 45歳～49歳 5 50歳～54歳
6 55歳～59歳 7 60歳～64歳 8 65歳～69歳 9 70歳～74歳
10 75歳～79歳 11 80歳以上

Q5 お子さんと同じく同居している家族を教えてください。また、お子さんも含めた同居人数を記入してください。

- 1 父親 2 母親 3 祖父 4 祖母 5 きょうだい（具体的に ）
6 子ども（当事者）1人暮らし 7 その他（ ） 同居人数 計 _____人

Q6 お子さんの家の生計を支えているのは主にお子さんから見ると誰ですか。生計を立てている方が複数いる場合は、最も多く家計を負担している方をお教えてください。また、主に仕送りして生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている方をお教えてください。（○はひとつだけ）

- 1 父 2 母 3 祖父 4 祖母 5 きょうだい 6 配偶者
7 お子さんご自身 8 他の家族や親戚 9 生活保護などを受けている
10 その他（ ）

Q7 お子さんの現在の状況をご記入ください。（○はひとつだけ）

- 1 中学生 2 高校生 3 高校生（通信制） 4 専門学校生 5 高等専門学校・短期大学生
6 4年制大学・大学院生 7 1～6の学校を中退（学校： ）
8 1～6の学校を休学中（学校： ） 9 専業主婦・主夫又は家事手伝い 10 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない 11 自営業・自由業 12 勤めている（正社員）
13 勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト[学生のアルバイトは除く]）
14 無職（ひきこもり状態でない） 15 ひきこもり・不登校の状態
16 その他（ ）

Q8 お子さんは、ひきこもりや不登校の状態、以下のような状態になったことはありますか。

（○はひとつだけ。当初の状態をお答えください。）

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室から出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

Q9 その状態になったのは、お子さんが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

歳

Q10 その状態はどれくらい続きましたか。（○はひとつだけ）

- 1 6ヶ月以内
- 2 6ヶ月～1年
- 3 1年～3年
- 4 3年～5年
- 5 5年～7年
- 6 7年以上

Q11 その状態について、お子さんが関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。（○はひとつだけ）

- 1 ある
- 2 ない →Q13へお進みください

↓

Q12 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことがある機関、人に○をつけてください

（○はいくつでも）

- 1 学校
- 2 教育相談（教育文化センター）
- 3 適応指導教室
- 4 保健所
- 5 府（県）の児童相談所（子ども家庭センター）
- 6 病院・診療所
- 7 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーション
- 8 市（町・村）のひきこもり等の相談機関
- 9 民間施設（フリースクール等）
- 10 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
- 11 家族
- 12 友人・知人・地域の人
- 13 その他の施設・機関・人（具体的に： _____）

Q13 その状態について、ご家族が関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。（○はひとつだけ）

- 1 ある
- 2 ない →Q20へお進みください

↓

Q14 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことがある機関、人に○をつけてください。

（○はいくつでも）

- 1 学校
- 2 教育委員会
- 3 府（県）の児童相談所（子ども家庭センター）
- 4 市（町・村）の家庭児童相談室（所）
- 5 保健所・保健センター
- 6 病院・診療所
- 7 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーション
- 8 市（町・村）のひきこもり等の相談機関
- 9 民間施設（フリースクール等）
- 10 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
- 11 友人・知人・地域の人
- 12 その他の施設・機関・人（具体的に： _____）

Q15 お子さんがひきこもりや不登校になり、相談機関につながるまでどのくらいの期間がありましたか。

(○はひとつだけ)

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 6ヶ月未満 | 2 6ヶ月～1年 | 3 1年～3年 |
| 4 3年～5年 | 5 5年～7年 | 6 7年以上 |

Q16 相談機関につながったきっかけについてお教えてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 学校からの情報提供 | 2 行政からの情報提供（広報、市ホームページ） |
| 3 友人・知人からの情報提供 | 4 民生委員・児童委員などからの情報提供 |
| 5 講演会などの場で知った | 6 ポスター・チラシ・冊子で知った |
| 7 民間の相談機関から紹介された | 8 府（県）や市（町村）の相談機関から紹介された |
| 9 医療機関から紹介された | 10 新聞記事や新聞行事案内、テレビ報道などを見て |
| 11 その他 | 【具体的に |

Q17 相談機関につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 学校からの情報提供 | 2 行政からの情報提供（広報、市ホームページ） |
| 3 講演会など必要な知識の得られる場 | 4 行政の用意する親どうし情報交換のできる場所 |
| 5 民生委員・児童委員などからの声かけ | 6 子ども・若者が気軽に行け時間をすごせる場所 |
| 7 その他 | 【具体的に： |

Q18 相談機関につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。(○はひとつだけ)

1 変わった

2 変わらない

↓具体的に御記入ください（子どもさんの感想など）

Q19 相談機関につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。(○はひとつだけ)

1 変わった

2 変わらない

↓具体的に御記入ください（ご家族の感想など）

Q20 枚方市では、平成 25 年 4 月から「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を開設し、現在枚方市駅前サンプラザ3号館4階の子ども総合相談センター「となとな」内で相談をお受けしています。「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」があることをご存知でしたか。（○はひとつだけ）

- 1 利用している（した） 2 知っている 3 詳しくは知らない 4 知らない

Q21 枚方市では、平成 25 年 5 月に「枚方市子ども・若者育成計画 ～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」を策定し、計画に沿って施策を進めているところです。「枚方市子ども・若者育成計画」があることをご存知でしたか。（○はひとつだけ）

- 1 詳しく知っている 2 読んだことがある 3 聞いたことがある 4 知らない

Q22 枚方市でひきこもり等の支援を今後もおこなう場合、どのような試みが必要と思いますか。市役所でできることだけでなく、民間でできると思われることも含めてお答えください。（○はいくつでも）

- 1 現在のひきこもり等子ども・若者相談支援センターの周知
2 行政での相談できる場所をもっと多く作る 3 民間での相談できる場所をもっと多く作る
4 民間のフリースクールをもっと増やす 5 行政主導のフリースクールを作る
6 子ども・若者が自由に行け過ごせる場所の提供（行政主体）
7 子ども・若者が自由に行け過ごせる場所の提供（民間主体）
8 仕事の場の提供（体験・訓練も含め） 9 民生委員・児童委員の活動の活発化
10 理解者・支援者・ボランティアの養成 11 ひきこもり経験者が活躍できる支援現場
12 親亡き後のお子さんの生活について相談できる機関の設置
14 理解のある精神科・心療内科等の病院・医院を増やす
15 その他 [具体的に：]

Ⅱ. 家族会について

ひきこもりや不登校の子どもを持つ家族にとって、悩みや情報を共有し支え合えるネットワークづくりは重要です。枚方市ひきこもり家族会連絡会は、枚方市内で活動するひきこもりや不登校の家族会の連絡組織として、平成 28 年 4 月に結成され、現在、「NPO 法人 つばさの会大阪」「イシス大阪 家族会」「不登校の親の会『カモミール』」「登校拒否を克服する会・北河内交流会」が加入されています。また、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（行政、教育機関、NPO、事業所など 31 機関で構成）のメンバーとして、さまざまな意見や提案等もされています。このⅡは、家族会に関する設問となっています。

Q23 家族会についてお尋ねします。お子さんがひきこもりや不登校になり、家族会につながるまでどのくらいの期間がありましたか。（○はひとつだけ）

- 1 6ヶ月未満 2 6ヶ月～1年 3 1年～3年
4 3年～5年 5 5年～7年 6 7年以上

Q24 家族会につながったきっかけについて教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 学校からの情報提供 | 2 行政からの情報提供 |
| 3 広報ひらかた短信コーナー | 4 友人・知人からの情報提供 |
| 5 民生委員・児童委員などからの情報提供 | 6 ポスター・チラシ・冊子で知った |
| 7 講演会などの場で知った | 8 民間の相談機関から紹介された |
| 9 府（県）や市（町村）の相談機関から紹介された | 10 医療機関から紹介された |
| 11 新聞記事や新聞行事案内、テレビ報道などを見て | 12 その他（具体的に |

Q25 家族会につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 学校からの情報提供 | 2 行政からの情報提供（広報、市ホームページ） |
| 3 講演会など必要な知識の得られる場 | 4 行政の用意する親どうし情報交換のできる場所 |
| 5 民生委員・児童委員などからの声かけ | 6 子ども・若者が気軽に行け時間をすごせる場所 |
| 7 その他 | 具体的に： |

Q26 家族会につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。（〇はひとつだけ）

1 変わった

2 変わらない

↓具体的に記入ください（ご家族の感想など）

Q27 家族会につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。（〇はひとつだけ）

1 変わった

2 変わらない

↓具体的に御記入ください（子どもさんの感想など）

Q28 枚方市家族会連絡会からの質問です。家族会は、困難を抱えた家族への周知が不十分で、運営もボランティア中心で支援体制がありません。家族会の周知や支援体制などの要望を具体的にお知らせください。

（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 公的機関への情報提供 | 2 公的機関への出前講座 |
| 3 公的機関との定期的協議 | 4 家族会の交流場所確保への支援 |
| 5 家族会運営への公的助成 | 6 家族会への民間の支援の推進 |
| 7 その他 | 具体的に： |

Q29 最後の質問です。現在、子ども（当事者）やご家族が感じておられる心配なこと、あるいは変化のきっかけとなる（なった）こと、Ⅰ、Ⅱの設問では伝え切れなかったことなど、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒でできるだけ早くご返送ください（最終〆切9月末日）。

枚方市子ども総合相談センター「となとな」内 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター